

平成 25 年度 県民健康調査

「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

結果報告書

福島県立医科大学

放射線医学県民健康管理センター

(平成 27 年 5 月)



## 平成25年度 県民健康調査

### 「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

#### 調査票別集計結果



# 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」結果概要

## 1. 目 的

平成 23 年 3 月 11 日発生の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所爆発事故以降、放射線への不安、避難生活、財産の喪失及び恐怖体験等により、精神的苦痛や心的外傷(トラウマ)を負った県民のこころの健康度や生活習慣を把握し、適切なケアを提供するため、平成 23 年度から県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施し、支援を行っている。

こころのケアについては、中・長期の対策が必要であり、そのためには「こころ」や「からだ」の健康状態について、継続した見守り・支援を行っていることを対象者へ伝えるとともに、「こころ」や「からだ」の変化やその要因を把握し、状況に応じた適切な支援を実施する必要があることから、平成 25 年度も引き続き質問紙による調査を行った。

## 2. 方 法

### 1)対 象

平成 25 年度の対象は、平成 23 年 3 月 11 日時点で国が指定する避難区域等の住民及び平成 25 年 4 月 1 日までに生まれた方であり、具体的には、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、南相馬市、田村市、川俣町の全域及び伊達市の一部(特定避難勧奨地点関係地区)の市町村に住民登録があった方、212,372 人を対象とした。

0 歳～3 歳用	:平成 22 年 4 月 2 日から平成 25 年 4 月 1 日までに生まれた方	4,164 人
4 歳～6 歳用	:平成 19 年 4 月 2 日から平成 22 年 4 月 1 日までに生まれた方	5,169 人
小学生用	:平成 13 年 4 月 2 日から平成 19 年 4 月 1 日までに生まれた方	11,167 人
中学生用	:平成 10 年 4 月 2 日から平成 13 年 4 月 1 日までに生まれた方	6,013 人
一般用	:平成 10 年 4 月 1 日以前に生まれた方	185,859 人

### 2)方 法

上記対象に対して、上記区分に従い、調査票(自記式または保護者回答)を郵送した。

### 3)集計対象期間

平成 26 年 2 月 5 日から平成 26 年 10 月 31 日までとした。

### 4)回答者数および有効回答数

回答者数(回答率)は、0 歳～3 歳用が 1,635 人(39.3%)、4 歳～6 歳用が 2,033 人(39.3%)、小学生用が 4,005 人(35.9%)、中学生用が 1,822 人(30.3%)、一般用が 46,388 人(25.0%)であった(表 1)。

有効回答数(有効回答率)は、0 歳～3 歳用が 1,634 人(39.2%)、4 歳～6 歳用が 2,032 人(39.3%)、小学生用が 3,987 人(35.7%)、中学生用が 1,820 人(30.3%)、一般用が 46,377 人(25.0%)であった。

調査票ごとに、各項目について結果を集計した。集計結果は、結果報告書のとおりである。なお、各項目に欠損値があるため、合計は上記有効回答数と一致しない場合がある。また、結果報告書の割合(%)は、端数処理を行っているため、合計が 100%にならない場合がある。

表1 各年度の質問紙調査における対象数、回答者数および有効回答数(割合)

		平成 25 年度		平成 24 年度		平成 23 年度	
対象数	0歳～3歳	4,164	0歳～3歳	4,625	子ども①	11,717	
	4歳～6歳	5,169	4歳～6歳	5,047			
	小学生	11,167	小学生	11,413	子ども②	11,791	
	中学生	6,013	中学生	6,023	子ども③	6,077	
	(小計	26,513)	(小計	27,108)	(小計	29,585)	
	一般	185,859	一般	184,507	一般	180,604	
	計	212,372	計	211,615	計	210,189	
回答者数(%)	0歳～3歳	1,635 (39.3)	0歳～3歳	2,143 (46.3)	子ども①	7,824 (66.8)	
	4歳～6歳	2,033 (39.3)	4歳～6歳	2,231 (44.2)			
	小学生	4,005 (35.9)	小学生	4,703 (41.2)	子ども②	7,509 (63.7)	
	中学生	1,822 (30.3)	中学生	2,126 (35.3)	子ども③	3,412 (56.1)	
	(小計	9,495 (35.8))	(小計	11,203 (41.3))	(小計	18,745 (63.4))	
	一般	46,388 (25.0)	一般	55,076 (29.9)	一般	73,569 (40.7)	
	計	55,883 (26.3)	計	66,279 (31.3)	計	92,314 (43.9)	
有効回答数(%)	0歳～3歳	1,634 (39.2)	0歳～3歳	2,143 (46.3)	子ども①	7,818 (66.7)	
	4歳～6歳	2,032 (39.3)	4歳～6歳	2,230 (44.2)			
	小学生	3,987 (35.7)	小学生	4,683 (41.0)	子ども②	7,464 (63.3)	
	中学生	1,820 (30.3)	中学生	2,118 (35.2)	子ども③	3,411 (56.1)	
	(小計	9,473 (35.7))	(小計	11,174 (41.2))	(小計	18,693 (63.2))	
	一般	46,377 (25.0)	一般	55,064 (29.8)	一般	73,433 (40.7)	
	計	55,850 (26.3)	計	66,238 (31.3)	計	92,126 (43.8)	

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（0 歳～3 歳用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査(0 歳～3 歳用)の対象 4,164 人のうち、有効回答は 1,634 人(39.2%)であった。内訳は、男児 824 人(50.4%)、女児 810 人(49.6%)で、平均年齢は 2.0 歳であった。

現住所は、県内 1,191 人(72.9%)、県外 443 人(27.1%)であった。

### 1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 521 人(32.5%)、「良好」が 681 人(42.5%)、「普通」が 381 人(23.8%)、「悪い」が 18 人(1.1%)、「きわめて悪い」が 0 人(0.0%)であった。

### 2. お子様の現在の身長と体重について（問 2）

男児の身長・体重の平均は、1 歳(平成 26 年 4 月 1 日時点)78.4cm・10.3kg、2 歳 88.2cm・12.8kg、3 歳 96.0cm・15.0kg であった。女児の身長・体重の平均は、1 歳 77.8cm・10.0kg、2 歳 87.4cm・12.2kg、3 歳 94.6cm・14.2kg であった。

### 3. 治療中の病気について（問 3）

治療中の病気等は、「ない」が 1,158 人(71.4%)、「ある」が 463 人(28.6%)であった。

「ある」と回答した者の内訳(複数回答)は、表 2 のとおりであった。

表 2 治療中の病気の内訳

病名	人数
風邪	189
アトピー性皮膚炎	76
喘息	62
中耳炎	53
歯科疾患	40
アレルギー性鼻炎	35
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	28
インフルエンザ	11
副鼻腔炎・蓄膿症	10
てんかん	2
ADHD	2
その他	71

(複数回答)

#### 4. 入院の経験について（問 4）

入院の経験は、「ない」が 1,238 人(76.0%)、「ある」が 391 人(24.0%)であった。

「ある」と回答した者の内訳(複数回答)は表 3 のとおりであった。

入院の経験が「ある」と回答した者のうち、この 1 年以内に病気により入院しなかった(「いずれもなし」と回答した)者は 247 人であり、この 1 年以内に入院した者の内訳(複数回答)は表 4 のとおりであった。

表 3 入院時の病気の内訳

病名	人数
RS ウイルス感染症	107
肺炎	69
気管支炎	48
風邪	42
胃腸炎	38
ロタウイルス感染症	33
喘息	32
マイコプラズマ肺炎	30
熱性けいれん	29
川崎病	15
鼠径ヘルニア	13
インフルエンザ	12
その他	114

(複数回答)

表 4 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
RS ウイルス感染症	30
肺炎	24
気管支炎	18
喘息	14
ロタウイルス感染症	13
熱性けいれん	13
風邪	12
胃腸炎	9
マイコプラズマ肺炎	8
川崎病	7
鼠径ヘルニア	6
インフルエンザ	3
その他	28

(複数回答)

#### 5. 検査の経験について（問 5）

1) CT 検査の経験は、「ない」が 1,516 人(93.1%)、「ある」が 70 人(4.3%)、「わからない」が 43 人(2.6%)であった。

2) X 線を使った検査の経験(CT、レントゲンを除く)は、「ない」が 1,486 人(92.6%)、「ある」が 60 人(3.7%)、「わからない」が 58 人(3.6%)であった。

「ある」と回答した者のうち、「透視検査」が 43 人、「血管造影検査」が 9 人、「核医学検査」が 2 人であった。

#### 6. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 6）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が 1,604 人(98.5%)、「ある」が 4 人(0.2%)、「わからない」が 20 人(1.2%)であった。

#### 7. 睡眠時間と昼寝の有無について（問 7）

1) 就寝時刻は、平均で午後 9 時 11 分であり、起床時刻は午前 7 時 14 分であった。睡眠時間は、平均で 9 時間 59 分であった。

2) 昼寝の有無(お子様はお昼寝をしますか)は、「いいえ」が 215 人(13.3%)、「はい」が 1,404 人(86.7%)であった。昼寝時間は、平均で 1 時間 53 分であった。



## 8. 普段の運動量について（問8）

運動（普段、運動をどのくらいしていますか（調査票記入時点で2歳以上））は、「ほとんど毎日している」が504人（45.0%）、「週に2～4回している」が355人（31.7%）、「週1回程度している」が144人（12.9%）、「ほとんどしていない」が116人（10.4%）であった。

## 9. 食生活について（問9）

- 1) 母乳（お子様は母乳を飲んでいますか）は、「はい」が225人（14.4%）、「いいえ」が1,339人（85.6%）であった。
- 2) 食品（飲料）および朝食、外食、調理された食品を食べる（飲む）頻度（調査票記入時点で1歳以上）は、表5（次頁）のとおりであった。

## 10. 育児について（問10）

育児（育児に自信がもてないことがありますか）は、「はい」が207人（12.7%）、「いいえ」が710人（43.6%）、「何ともいえない」が713人（43.7%）であった。

表5 1歳～3歳児の食品(飲料)および朝食、外食、調理された食品を食べる(飲む)頻度  
(上段人数/下段割合)

	食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計	
朝食	11 (0.7%)	0 (0.0%)	6 (0.4%)	26 (1.7%)	49 (3.2%)	1,463 (94.1%)	1,555	
外食(給食はのぞく)	158 (10.2%)	892 (57.8%)	414 (26.8%)	28 (1.8%)	3 (0.2%)	48 (3.1%)	1,543	
調理された食品	147 (9.5%)	591 (38.3%)	587 (38.0%)	180 (11.7%)	26 (1.7%)	14 (0.9%)	1,545	
ごはん	1 (0.1%)	0 (0.0%)	7 (0.4%)	45 (2.9%)	125 (8.0%)	1,380 (88.6%)	1,558	
パン	30 (1.9%)	214 (13.8%)	532 (34.3%)	359 (23.2%)	164 (10.6%)	251 (16.2%)	1,550	
魚料理	32 (2.1%)	156 (10.0%)	723 (46.6%)	504 (32.5%)	96 (6.2%)	42 (2.7%)	1,553	
肉類	とり肉	50 (3.2%)	290 (18.6%)	849 (54.6%)	318 (20.5%)	36 (2.3%)	12 (0.8%)	1,555
	牛肉、豚肉	76 (4.9%)	197 (12.7%)	670 (43.2%)	511 (32.9%)	75 (4.8%)	22 (1.4%)	1,551
	ハム、ソーセージ	125 (8.1%)	293 (19.0%)	587 (38.1%)	415 (26.9%)	83 (5.4%)	39 (2.5%)	1,542
野菜	緑の葉の野菜	118 (7.6%)	198 (12.8%)	494 (31.8%)	416 (26.8%)	182 (11.7%)	144 (9.3%)	1,552
	赤や黄色の野菜	38 (2.4%)	100 (6.4%)	372 (23.9%)	538 (34.6%)	275 (17.7%)	232 (14.9%)	1,555
	淡色野菜	46 (3.0%)	114 (7.3%)	358 (23.1%)	562 (36.2%)	275 (17.7%)	198 (12.7%)	1,553
	野菜ジュース	525 (33.8%)	399 (25.7%)	290 (18.7%)	167 (10.8%)	67 (4.3%)	105 (6.8%)	1,553
果物	くだもの	54 (3.5%)	134 (8.6%)	330 (21.2%)	382 (24.5%)	265 (17.0%)	392 (25.2%)	1,557
	果物ジュース	281 (18.2%)	363 (23.4%)	349 (22.5%)	265 (17.1%)	138 (8.9%)	152 (9.8%)	1,548
大豆	納豆	209 (13.4%)	259 (16.6%)	489 (31.4%)	358 (23.0%)	164 (10.5%)	78 (5.0%)	1,557
	味噌汁	56 (3.6%)	85 (5.5%)	239 (15.3%)	331 (21.2%)	285 (18.3%)	563 (36.1%)	1,559
	とうふ料理	63 (4.1%)	232 (14.9%)	569 (36.6%)	427 (27.5%)	182 (11.7%)	81 (5.2%)	1,554
	煮豆料理	624 (40.2%)	593 (38.2%)	243 (15.7%)	72 (4.6%)	15 (1.0%)	5 (0.3%)	1,552
牛乳	283 (18.2%)	153 (9.8%)	201 (12.9%)	222 (14.3%)	169 (10.9%)	526 (33.8%)	1,554	
豆乳	1,211 (77.8%)	208 (13.4%)	67 (4.3%)	35 (2.2%)	12 (0.8%)	23 (1.5%)	1,556	
ヨーグルト、乳酸菌飲料	63 (4.0%)	132 (8.5%)	322 (20.6%)	408 (26.2%)	223 (14.3%)	412 (26.4%)	1,560	

※ 各項目に欠損値があるため、合計は一致しない場合がある。

## 平成25年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（4歳～6歳用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（4歳～6歳用）の対象5,169人のうち、有効回答は2,032人（39.3%）であった。内訳は、男児1,022人（50.3%）、女児1,010人（49.7%）で、平均年齢は4.8歳であった。

現住所は、県内1,409人（69.3%）、県外623人（30.7%）であった。

### 1. お子様の健康状態について（問1）

健康状態は、「きわめて良好」が534人（26.9%）、「良好」が827人（41.7%）、「普通」が591人（29.8%）、「悪い」が28人（1.4%）、「きわめて悪い」が3人（0.2%）であった。

### 2. お子様の現在の身長と体重について（問2）

男児の身長・体重の平均は、4歳（平成26年4月1日時点）102.5cm・16.6kg、5歳109.4cm・18.9kg、6歳115.8cm・21.5kgであった。女児の身長・体重の平均は、4歳102.0cm・16.3kg、5歳108.5cm・18.4kg、6歳114.6cm・20.7kgであった。

### 3. 治療中の病気について（問3）

治療中の病気等は、「ない」が1,278人（63.2%）、「ある」が743人（36.8%）であった。

「ある」と回答した者の内訳は、表6のとおりであった。

表6 治療中の病気の内訳

病名	人数
風邪	202
アレルギー性鼻炎	147
喘息	145
歯科疾患	143
アトピー性皮膚炎	114
中耳炎	69
副鼻腔炎・蓄膿症	46
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	36
インフルエンザ	29
てんかん	12
ADHD	5
その他	93

（複数回答）

#### 4. 入院の経験について（問 4）

入院の経験は、「ない」が 1,415 人(69.9%)、「ある」が 610 人(30.1%)であった。

「ある」と回答した者の内訳(複数回答)は表 7 のとおりであった。

入院の経験が「ある」と回答した者のうち、この 1 年以内に病気により入院しなかった(「いずれもなし」と回答した)者は 505 人であり、この 1 年以内に入院した者の内訳(複数回答)は表 8 のとおりであった。

表 7 入院時の病気の内訳

病名	人数
肺炎	173
RS ウイルス感染症	121
マイコプラズマ肺炎	101
気管支炎	77
喘息	74
胃腸炎	67
ロタウイルス感染症	56
熱性けいれん	55
風邪	53
インフルエンザ	35
鼠径ヘルニア	31
川崎病	25
その他	122

(複数回答)

表 8 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
肺炎	20
風邪	13
マイコプラズマ肺炎	11
熱性けいれん	11
気管支炎	10
鼠径ヘルニア	10
喘息	7
川崎病	7
胃腸炎	6
ロタウイルス感染症	6
RS ウイルス感染症	5
インフルエンザ	5
その他	26

(複数回答)

#### 5. 検査の経験について（問 5）

1) CT 検査の経験は、「ない」が 1,826 人(90.4%)、「ある」が 129 人(6.4%)、「わからない」が 64 人(3.2%)であった。

2) X 線を使った検査の経験(CT、レントゲンは除く)は、「ない」が 1,828 人(91.4%)、「ある」が 102 人(5.1%)、「わからない」が 70 人(3.5%)であった。

「ある」と回答した者のうち、「透視検査」が 76 人、「血管造影検査」が 14 人、「核医学検査」が 3 人であった。

#### 6. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 6）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が 1,975 人(98.1%)、「ある」が 2 人(0.1%)、「わからない」が 37 人(1.8%)であった。

#### 7. 睡眠時間と昼寝の有無について（問 7）

1) 就寝時刻は、平均で午後 9 時 11 分であり、起床時刻は午前 6 時 56 分であった。睡眠時間は、平均で 9 時間 44 分であった。

2) 昼寝の有無(お子様はお昼寝をしますか)は、「いいえ」が 1,272 人(63.3%)、「はい」が 737 人(36.7%)であった。昼寝時間は、平均で 1 時間 39 分であった。

## 8. 普段の運動量について（問8）

運動（普段、運動をどのくらいしていますか）は、「ほとんど毎日している」が 791 人（41.0%）、「週に 2～4 回している」が 610 人（31.6%）、「週 1 回程度している」が 249 人（12.9%）、「ほとんどしていない」が 279 人（14.5%）であった。

## 9. 食生活について（問9）

食品（飲料）および朝食、外食、調理された食品を食べる（飲む）頻度は、表 9（次頁）のとおりであった。

表9 4歳～6歳児の食品(飲料)および朝食、外食、調理された食品を食べる(飲む)頻度  
(上段人数/下段割合)

	食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計	
朝食	7 (0.3%)	2 (0.1%)	19 (0.9%)	48 (2.4%)	88 (4.3%)	1,865 (91.9%)	2,029	
外食(給食はのぞく)	139 (6.9%)	1,299 (64.4%)	507 (25.1%)	15 (0.7%)	0 (0.0%)	57 (2.8%)	2,017	
調理された食品	147 (7.3%)	791 (39.4%)	825 (41.1%)	195 (9.7%)	37 (1.8%)	14 (0.7%)	2,009	
ごはん	1 (0.0%)	3 (0.1%)	4 (0.2%)	78 (3.8%)	208 (10.3%)	1,732 (85.5%)	2,026	
パン	22 (1.1%)	311 (15.3%)	763 (37.6%)	453 (22.3%)	184 (9.1%)	294 (14.5%)	2,027	
魚料理	20 (1.0%)	188 (9.3%)	1,061 (52.6%)	615 (30.5%)	90 (4.5%)	43 (2.1%)	2,017	
肉類	とり肉	19 (0.9%)	326 (16.1%)	1,185 (58.7%)	441 (21.8%)	39 (1.9%)	9 (0.4%)	2,019
	牛肉、豚肉	28 (1.4%)	134 (6.6%)	982 (48.5%)	741 (36.6%)	111 (5.5%)	27 (1.3%)	2,023
	ハム、ソーセージ	32 (1.6%)	278 (13.9%)	884 (44.1%)	623 (31.1%)	127 (6.3%)	60 (3.0%)	2,004
野菜	緑の葉の野菜	120 (5.9%)	231 (11.4%)	703 (34.8%)	589 (29.1%)	198 (9.8%)	180 (8.9%)	2,021
	赤や黄色の野菜	43 (2.1%)	149 (7.4%)	625 (30.9%)	710 (35.1%)	270 (13.4%)	223 (11.0%)	2,020
	淡色野菜	52 (2.6%)	142 (7.0%)	542 (26.9%)	721 (35.7%)	329 (16.3%)	232 (11.5%)	2,018
	野菜ジュース	837 (41.4%)	657 (32.5%)	278 (13.7%)	126 (6.2%)	52 (2.6%)	72 (3.6%)	2,022
果物	くだもの	57 (2.8%)	180 (8.9%)	460 (22.7%)	534 (26.4%)	340 (16.8%)	451 (22.3%)	2,022
	果物ジュース	456 (22.6%)	595 (29.5%)	457 (22.6%)	258 (12.8%)	114 (5.6%)	139 (6.9%)	2,019
大豆	納豆	220 (10.9%)	514 (25.4%)	778 (38.5%)	341 (16.9%)	114 (5.6%)	56 (2.8%)	2,023
	味噌汁	43 (2.1%)	111 (5.5%)	288 (14.2%)	406 (20.0%)	394 (19.4%)	784 (38.7%)	2,026
	とうふ料理	91 (4.5%)	383 (18.9%)	835 (41.3%)	464 (22.9%)	174 (8.6%)	77 (3.8%)	2,024
	煮豆料理	816 (40.5%)	852 (42.3%)	269 (13.3%)	58 (2.9%)	14 (0.7%)	6 (0.3%)	2,015
牛乳	112 (5.6%)	127 (6.3%)	224 (11.1%)	285 (14.2%)	329 (16.3%)	937 (46.5%)	2,014	
豆乳	1,617 (80.1%)	284 (14.1%)	73 (3.6%)	24 (1.2%)	10 (0.5%)	11 (0.5%)	2,019	
ヨーグルト、乳酸菌飲料	51 (2.5%)	206 (10.2%)	499 (24.6%)	486 (24.0%)	292 (14.4%)	493 (24.3%)	2,027	

※ 各項目に欠損値があるため、合計は一致しない場合がある。

## 10. 子どもの情緒と行動について（問 10）

1) 子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答 2,027 人のうち、16 点<sup>※1</sup>以上が 288 人(14.2%)、20 点<sup>※2</sup>以上が 110 人(5.4%)であった(図 1)。平均総合得点は 9.7 点であった。

男児では有効回答 1,020 人のうち、16 点以上が 170 人(16.7%)、20 点以上が 69 人(6.8%)であり、女児では有効回答 1,007 人のうち、16 点以上が 118 人(11.7%)、20 点以上が 41 人(4.1%)であった(図 2)。平均総合得点は男児では 10.4 点、女児では 9.0 点であった。

2) 子どもが情緒、集中力、行動、他人との付き合いのいずれか 1 つ以上の領域において困難を抱えているかについて、「いいえ」が 1,504 人(74.5%)、「はい(ささいな困難)」が 427 人(21.1%)、「はい(明らかな困難)」が 76 人(3.8%)、「はい(深刻な困難)」が 12 人(0.6%)であった。

3) 2)で「はい」と回答した者のうち、子どもがその困難によって動揺したり、悩んだりしているかについて、「まったくない」が 197 人(39.6%)、「すこしだけ」が 270 人(54.3%)、「かなり」が 24 人

(4.8%)、「大いに」が 6 人(1.2%)であった。

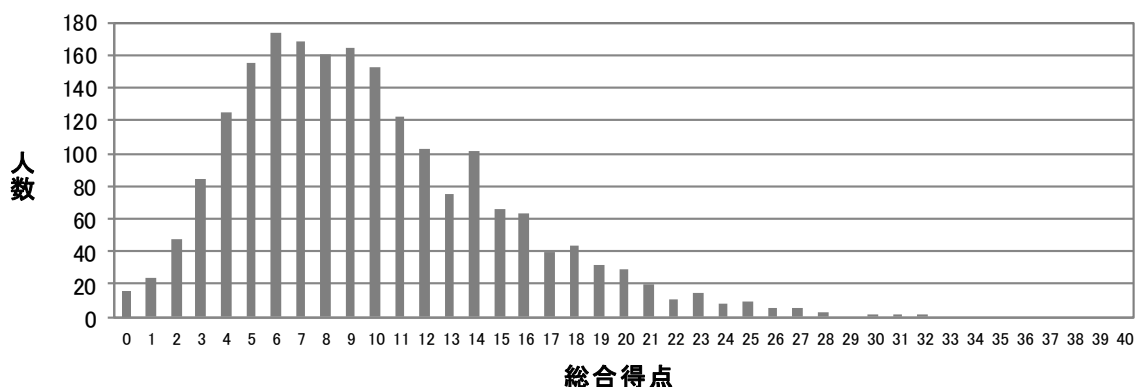


図 1 4 歳～6 歳の子どもの情緒と行動(SDQ): 全体

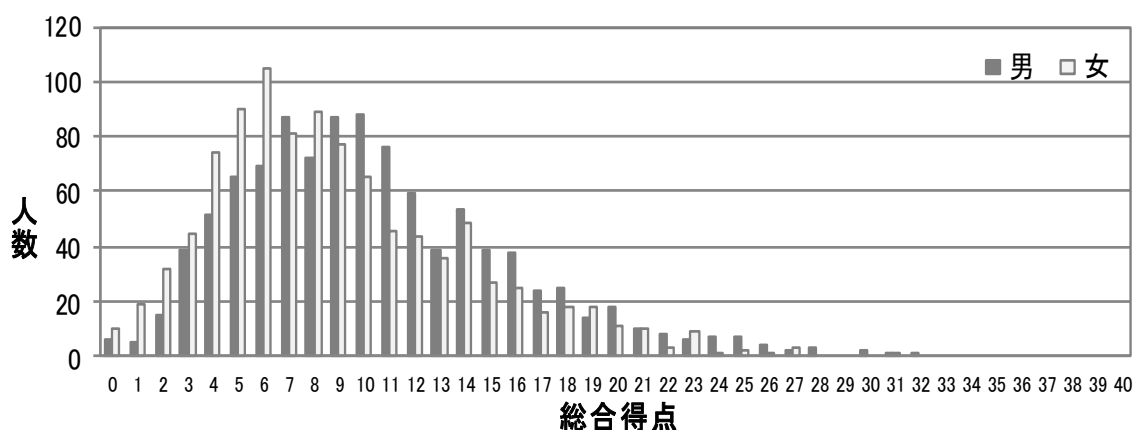


図 2 4 歳～6 歳の子どもの情緒と行動(SDQ): 男女別

※1 16 点: 先行研究で示されている基準

※2 20 点: 福島県立医科大学の医師等が支援を行うために設けた基準

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（小学生用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（小学生用）の対象 11,167 人のうち、有効回答は 3,987 人（35.7%）であった。内訳は、男児 2,054 人（51.5%）、女児 1,933 人（48.5%）で、平均年齢は 9.4 歳であった。

現住所は、県内 2,932 人（73.5%）、県外 1,055 人（26.5%）であった。

### 1. お子様の健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 882 人（23.0%）、「良好」が 1,680 人（43.9%）、「普通」が 1,208 人（31.6%）、「悪い」が 50 人（1.3%）、「きわめて悪い」が 8 人（0.2%）であった。

### 2. お子様の現在の身長と体重について（問 2）

男児の身長・体重の平均は、1 年生 121.8cm・24.0kg、2 年生 127.6cm・27.5kg、3 年生 132.8cm・30.4kg、4 年生 138.4cm・35.4kg、5 年生 144.1cm・40.2kg、6 年生 152.5cm・45.0kg であった。女児の身長・体重の平均は、1 年生 121.1cm・23.5kg、2 年生 125.9cm・26.6kg、3 年生 132.0cm・29.4kg、4 年生 139.3cm・34.9kg、5 年生 145.4cm・38.8kg、6 年生 150.8cm・44.0kg であった。

### 3. 治療中の病気について（問 3）

治療中の病気等は、「ない」が 2,492 人（63.2%）、「ある」が 1,450 人（36.8%）であった。「ある」と回答した者の内訳は、表 10 のとおりであった。

表 10 治療中の病気の内訳

病名	人数
アレルギー性鼻炎	538
歯科疾患	331
アトピー性皮膚炎	230
喘息	195
風邪	160
副鼻腔炎・蓄膿症	93
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	86
ADHD	60
インフルエンザ	59
中耳炎	45
てんかん	26
その他	189

（複数回答）



#### 4. 入院の経験について（問 4）

入院の経験は、「ない」が 2,528 人(63.9%)、「ある」が 1,427 人(36.1%)であった。

「ある」と回答した者の内訳(複数回答)は表 11 のとおりであった。

入院の経験が「ある」と回答した者のうち、この 1 年以内に病気により入院しなかった(「いずれもなし」と回答した)者は 1,340 人であり、この 1 年以内に入院した者の内訳(複数回答)は表 12 のとおりであった。

表 11 入院時の病気の内訳

病名	人数
肺炎	406
喘息	190
気管支炎	182
マイコプラズマ肺炎	178
胃腸炎	169
RS ウイルス感染症	168
熱性けいれん	135
インフルエンザ	120
ロタウイルス感染症	115
風邪	101
鼠径ヘルニア	85
川崎病	39
その他	326

(複数回答)

表 12 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
マイコプラズマ肺炎	12
風邪	10
胃腸炎	9
肺炎	8
インフルエンザ	6
喘息	5
気管支炎	3
熱性けいれん	3
鼠径ヘルニア	3
RS ウイルス感染症	1
ロタウイルス感染症	1
川崎病	1
その他	35

(複数回答)

#### 5. 検査の経験について（問 5）

1) CT 検査の経験は、「ない」が 3,284 人(83.2%)、「ある」が 479 人(12.1%)、「わからない」が 184 人(4.7%)であった。

2) X 線を使った検査(CT、レントゲンは除く)の経験は、「ない」が 3,466 人(88.9%)、「ある」が 220 人(5.6%)、「わからない」が 211 人(5.4%)であった。

「ある」と回答した者のうち、「透視検査」が 147 人、「血管造影検査」が 36 人、「核医学検査」が 14 人であった。

#### 6. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 6）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が 3,824 人(97.3%)、「ある」が 6 人(0.2%)、「わからない」が 102 人(2.6%)であった。

#### 7. 睡眠時間について（問 7）

就寝時刻は、平均で午後 9 時 31 分であり、起床時刻は午前 6 時 27 分であった。睡眠時間は、平均で 8 時間 54 分であった。

## 8. 普段の運動量について（問8）

運動（普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか）は、「ほとんど毎日している」が294人（7.9%）、「週に2～4回している」が1,033人（27.7%）、「週1回程度している」が940人（25.2%）、「ほとんどしていない」が1,467人（39.3%）であった。

## 9. 食生活について（問9）

食品（飲料）および朝食、外食、調理された食品を食べる（飲む）頻度は、表13（次頁）のとおりであった。

表 13 小学生の食品(飲料)および朝食、外食、調理された食品を食べる(飲む)頻度  
(上段人数/下段割合)

	食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計	
朝食	25 (0.6%)	10 (0.3%)	35 (0.9%)	72 (1.8%)	146 (3.7%)	3,683 (92.7%)	3,971	
外食(給食はのぞく)	324 (8.2%)	2,581 (65.4%)	857 (21.7%)	27 (0.7%)	3 (0.1%)	153 (3.9%)	3,945	
調理された食品	244 (6.2%)	1,704 (43.3%)	1,548 (39.3%)	383 (9.7%)	38 (1.0%)	20 (0.5%)	3,937	
ごはん	2 (0.1%)	5 (0.1%)	24 (0.6%)	137 (3.4%)	441 (11.1%)	3,366 (84.7%)	3,975	
パン	58 (1.5%)	707 (17.9%)	1,531 (38.8%)	809 (20.5%)	341 (8.6%)	504 (12.8%)	3,950	
魚料理	43 (1.1%)	457 (11.6%)	2,102 (53.2%)	1,155 (29.3%)	130 (3.3%)	61 (1.5%)	3,948	
肉類	とり肉	26 (0.7%)	627 (15.8%)	2,324 (58.7%)	878 (22.2%)	77 (1.9%)	24 (0.6%)	3,956
	牛肉、豚肉	20 (0.5%)	226 (5.7%)	1,756 (44.3%)	1,650 (41.7%)	252 (6.4%)	57 (1.4%)	3,961
	ハム、ソーセージ	56 (1.4%)	800 (20.4%)	1,792 (45.6%)	1,011 (25.7%)	197 (5.0%)	74 (1.9%)	3,930
野菜	緑の葉の野菜	107 (2.7%)	431 (10.9%)	1,460 (36.8%)	1,186 (29.9%)	423 (10.7%)	356 (9.0%)	3,963
	赤や黄色の野菜	65 (1.6%)	391 (9.9%)	1,300 (32.8%)	1,353 (34.1%)	473 (11.9%)	383 (9.7%)	3,965
	淡色野菜	56 (1.4%)	239 (6.0%)	983 (24.9%)	1,549 (39.2%)	643 (16.3%)	482 (12.2%)	3,952
	野菜ジュース	1,793 (45.3%)	1,163 (29.4%)	517 (13.1%)	263 (6.6%)	90 (2.3%)	132 (3.3%)	3,958
果物	くだもの	100 (2.5%)	631 (15.9%)	1,158 (29.2%)	1,025 (25.9%)	465 (11.7%)	583 (14.7%)	3,962
	果物ジュース	1,068 (27.1%)	1,308 (33.1%)	846 (21.4%)	405 (10.3%)	156 (4.0%)	163 (4.1%)	3,946
大豆	納豆	406 (10.2%)	1,121 (28.3%)	1,533 (38.6%)	620 (15.6%)	182 (4.6%)	105 (2.6%)	3,967
	味噌汁	60 (1.5%)	192 (4.8%)	516 (13.0%)	846 (21.3%)	775 (19.5%)	1,577 (39.8%)	3,966
	とうふ料理	136 (3.4%)	780 (19.7%)	1,657 (41.8%)	953 (24.0%)	286 (7.2%)	154 (3.9%)	3,966
	煮豆料理	1,600 (40.4%)	1,712 (43.3%)	496 (12.5%)	110 (2.8%)	25 (0.6%)	13 (0.3%)	3,956
牛乳	135 (3.4%)	144 (3.6%)	226 (5.7%)	310 (7.9%)	787 (19.9%)	2,347 (59.4%)	3,949	
豆乳	3,220 (81.5%)	533 (13.5%)	116 (2.9%)	42 (1.1%)	19 (0.5%)	21 (0.5%)	3,951	
ヨーグルト、乳酸菌飲料	126 (3.2%)	486 (12.3%)	1,065 (26.8%)	954 (24.0%)	487 (12.3%)	849 (21.4%)	3,967	

※ 各項目に欠損値があるため、合計は一致しない場合がある。

## 10. 子どもの情緒と行動について（問 10）

1) 子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答 3,974 人のうち、16 点<sup>※1</sup>以上が 583 人(14.7%)、20 点<sup>※2</sup>以上が 226 人(5.7%)であった(図 3)。平均総合得点は 9.4 点であった。

男児では有効回答 2,044 人のうち、16 点以上が 346 人(16.9%)、20 点以上が 146 人(7.1%)であり、女児では有効回答 1,930 人のうち、16 点以上が 237 人(12.3%)、20 点以上が 80 人(4.1%)であった(図 4)。平均総合得点は男児では 10.0 点、女児では 8.8 点であった。

2) 子どもが情緒、集中力、行動、他人との付き合いのいずれか 1 つ以上の領域において困難を抱えているかについて、「いいえ」が 2,750 人(69.3%)、「はい(ささいな困難)」が 988 人(24.9%)、「はい(明らかな困難)」が 183 人(4.6%)、「はい(深刻な困難)」が 45 人(1.1%)であった。

3) 2)で「はい」と回答した者のうち、子どもがその困難によって動揺したり、悩んだりしているかについて、「まったくない」が 277 人(23.7%)、「すこしだけ」が 785 人(67.1%)、「かなり」が 87 人(7.4%)、「大いに」が 21 人(1.8%)であった。

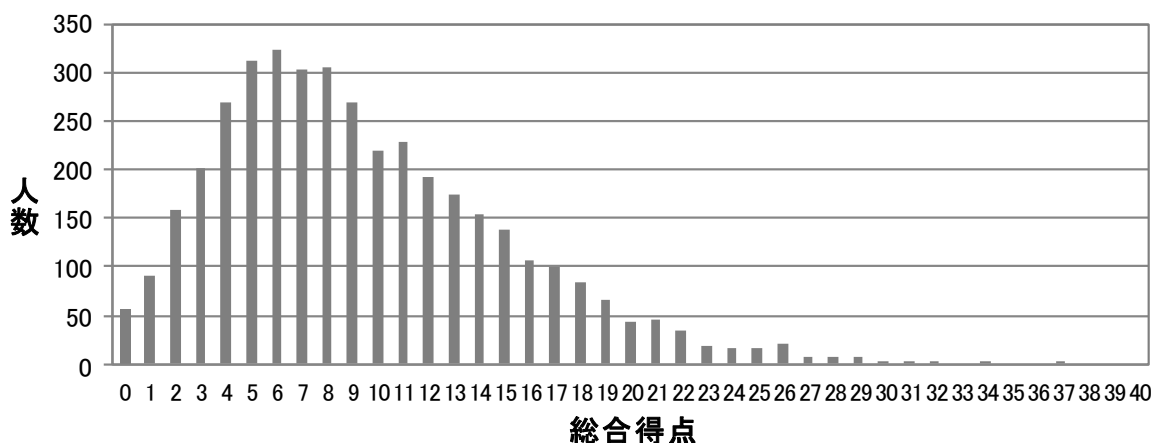


図 3 小学生の子どもの情緒と行動(SDQ) : 全体

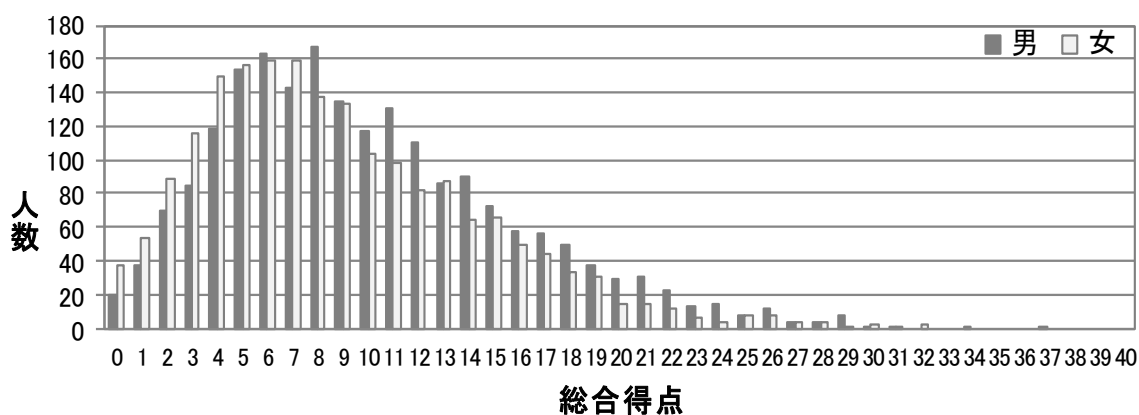


図 4 小学生の子どもの情緒と行動(SDQ) : 男女別

※1 16 点: 先行研究で示されている基準

※2 20点:福島県立医科大学の医師等が支援を行うために設けた基準

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（中学生用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（中学生用）の対象 6,013 人のうち、有効回答は 1,820 人（30.3%）であった。内訳は、男子 890 人（48.9%）、女子 930 人（51.1%）で、平均年齢は 13.9 歳であった。

現住所は、県内 1,425 人（78.3%）、県外 395 人（21.7%）であった。

### 1. 健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 341 人（30.3%）、「良好」が 344 人（30.6%）、「普通」が 406 人（36.1%）、「悪い」が 30 人（2.7%）、「きわめて悪い」が 3 人（0.3%）であった。

### 2. 現在の身長と体重について（問 2）

男子の身長・体重の平均は、1 年生 159.4cm・50.7kg、2 年生 165.0cm・56.0kg、3 年生 167.3cm・60.3kg であった。女子の身長・体重の平均は、1 年生 154.1cm・46.3kg、2 年生 155.9cm・49.7kg、3 年生 156.9cm・50.4kg であった。

### 3. 睡眠について（問 3）

- 1) 睡眠時間は、平均で 7 時間 8 分であった。
- 2) 睡眠満足度は、「十分だと思う」が 504 人（44.2%）、「やや足りない」が 520 人（45.7%）、「足りない」が 115 人（10.1%）であった。

### 4. 普段の運動量について（問 4）

運動（普段、体育の授業以外に運動をどのくらいしていますか）は、「ほとんど毎日している」が 538 人（47.1%）、「週に 2～4 回している」が 159 人（13.9%）、「週 1 回程度している」が 91 人（8.0%）、「ほとんどしていない」が 354 人（31.0%）であった。

### 5. 食生活について（問 5）

食品（飲料）および朝食、外食、調理された食品を食べる（飲む）頻度は、表 14（次頁）のとおりであった。

表 14 中学生の食品(飲料)および朝食、外食、調理された食品を食べる(飲む)頻度  
(上段人数/下段割合)

	食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計	
朝食	26 (2.3%)	12 (1.1%)	20 (1.8%)	24 (2.1%)	62 (5.4%)	994 (87.3%)	1,138	
外食(給食はのぞく)	183 (16.2%)	737 (65.2%)	172 (15.2%)	4 (0.4%)	0 (0.0%)	34 (3.0%)	1,130	
調理された食品	69 (6.1%)	445 (39.6%)	459 (40.8%)	108 (9.6%)	26 (2.3%)	18 (1.6%)	1,125	
ごはん	1 (0.1%)	3 (0.3%)	7 (0.6%)	44 (3.9%)	163 (14.3%)	920 (80.8%)	1,138	
パン	32 (2.8%)	243 (21.5%)	427 (37.8%)	194 (17.2%)	85 (7.5%)	150 (13.3%)	1,131	
魚料理	20 (1.8%)	151 (13.4%)	572 (50.7%)	321 (28.4%)	47 (4.2%)	18 (1.6%)	1,129	
肉類	とり肉	13 (1.1%)	180 (15.8%)	623 (54.8%)	271 (23.9%)	40 (3.5%)	9 (0.8%)	1,136
	牛肉、豚肉	11 (1.0%)	72 (6.3%)	463 (40.8%)	466 (41.1%)	92 (8.1%)	30 (2.6%)	1,134
	ハム、ソーセージ	36 (3.2%)	251 (22.2%)	475 (42.0%)	273 (24.2%)	70 (6.2%)	25 (2.2%)	1,130
野菜	緑の葉の野菜	35 (3.1%)	107 (9.4%)	345 (30.4%)	334 (29.4%)	140 (12.3%)	174 (15.3%)	1,135
	赤や黄色の野菜	24 (2.1%)	113 (10.0%)	329 (29.0%)	347 (30.6%)	167 (14.7%)	155 (13.7%)	1,135
	淡色野菜	22 (1.9%)	63 (5.6%)	247 (21.8%)	400 (35.3%)	186 (16.4%)	216 (19.0%)	1,134
	野菜ジュース	499 (44.0%)	332 (29.3%)	141 (12.4%)	76 (6.7%)	34 (3.0%)	53 (4.7%)	1,135
果物	くだもの	47 (4.1%)	230 (20.3%)	309 (27.2%)	262 (23.1%)	135 (11.9%)	151 (13.3%)	1,134
	果物ジュース	303 (26.8%)	346 (30.6%)	221 (19.6%)	127 (11.2%)	72 (6.4%)	61 (5.4%)	1,130
大豆	納豆	208 (18.4%)	377 (33.3%)	320 (28.3%)	141 (12.5%)	53 (4.7%)	33 (2.9%)	1,132
	味噌汁	27 (2.4%)	80 (7.0%)	128 (11.2%)	205 (18.0%)	213 (18.7%)	485 (42.6%)	1,138
	とうふ料理	50 (4.4%)	241 (21.2%)	402 (35.4%)	256 (22.6%)	106 (9.3%)	80 (7.0%)	1,135
	煮豆料理	468 (41.4%)	449 (39.7%)	151 (13.4%)	50 (4.4%)	7 (0.6%)	5 (0.4%)	1,130
牛乳	72 (6.4%)	50 (4.4%)	64 (5.6%)	87 (7.7%)	250 (22.1%)	610 (53.8%)	1,133	
豆乳	878 (77.6%)	158 (14.0%)	36 (3.2%)	33 (2.9%)	12 (1.1%)	15 (1.3%)	1,132	
ヨーグルト、乳酸菌飲料	67 (5.9%)	169 (14.9%)	299 (26.3%)	242 (21.3%)	115 (10.1%)	244 (21.5%)	1,136	

※ 各項目に欠損値があるため、合計は一致しない場合がある。

## 6. 震災で経験したことについて ※ 複数回答（問 6）

震災にて経験したことは、「地震」が 1,076 人、「津波」が 155 人、「原子力発電所事故」が 1,027 人、「いずれもなし」が 2 人であった。

## 7. 治療中の病気について（問 7）

治療中の病気等は、「ない」が 1,258 人(70.8%)、「ある」が 519 人(29.2%)であった。「ある」と回答した者の内訳は、表 15 のとおりであった。

表 15 治療中の病気の内訳

病名	人数
アレルギー性鼻炎	176
歯科疾患	123
アトピー性皮膚炎	75
喘息	50
喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎以外のアレルギー性疾患	32
副鼻腔炎・蓄膿症	26
ADHD	23
風邪	20
インフルエンザ	16
てんかん	12
中耳炎	9
その他	132

（複数回答）



## 8. 入院の経験について（問 8）

入院の経験は、「ない」が 1,140 人(64.2%)、「ある」が 637 人(35.8%)であった。

「ある」と回答した者の内訳(複数回答)は表 16 のとおりであった。

入院の経験が「ある」と回答した者のうち、この 1 年以内に病気により入院しなかった(「いずれもなし」と回答した)者は 604 人であり、この 1 年以内に入院した者の内訳(複数回答)は表 17 のとおりであった。

表 16 入院時の病気の内訳

病名	人数
肺炎	187
喘息	113
インフルエンザ	83
マイコプラズマ肺炎	79
気管支炎	79
胃腸炎	78
風邪	56
熱性けいれん	51
ロタウイルス感染症	31
鼠径ヘルニア	31
川崎病	21
RS ウイルス感染症	20
その他	149

(複数回答)

表 17 この 1 年以内の入院時の病気の内訳

病名	人数
肺炎	6
風邪	5
マイコプラズマ肺炎	3
インフルエンザ	3
喘息	2
胃腸炎	2
気管支炎	1
ロタウイルス感染症	1
熱性けいれん	1
RS ウイルス感染症	0
川崎病	0
鼠径ヘルニア	0
その他	14

(複数回答)

## 9. 検査の経験について（問 9）

1) CT 検査の経験は、「ない」が 1,420 人(80.3%)、「ある」が 282 人(15.9%)、「わからない」が 67 人(3.8%)であった。

2) X 線を使った検査の経験(CT、レントゲンは除く)は、「ない」が 1,556 人(88.9%)、「ある」が 113 人(6.5%)、「わからない」が 81 人(4.6%)であった。

「ある」と回答した者のうち、「透視検査」が 80 人、「血管造影検査」が 25 人、「核医学検査」が 3 人であった。

## 10. 病気の治療のための放射線療法の経験について（問 10）

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が 1,723 人(97.7%)、「ある」が 5 人(0.3%)、「わからない」が 36 人(2.0%)であった。

## 11. 子どもの情緒と行動について（問 11）

1) 子どもの情緒と行動(子どもの情緒と行動に関するアンケート(SDQ 日本語版))は、有効回答 1,776 人のうち、16 点<sup>※1</sup>以上が 234 人(13.2%)、20 点<sup>※2</sup>以上が 112 人(6.3%)であった(図 5)。平均総合得点は 8.7 点であった。

男子では有効回答 873 人のうち、16 点以上が 139 人(15.9%)、20 点以上が 62 人(7.1%)であり、女子では有効回答 903 人のうち、16 点以上が 95 人(10.5%)、20 点以上が 50 人(5.5%)であった(図 6)。平均総合得点は男子では 9.3 点、女子では 8.2 点であった。

2) 子どもが情緒、集中力、行動、他人との付き合いのいずれか 1 つ以上の領域において困難を抱えているかについて、「いいえ」が 1,231 人(69.5%)、「はい(ささいな困難)」が 384 人(21.7%)、「はい(明らかな困難)」が 100 人(5.6%)、「はい(深刻な困難)」が 55 人(3.1%)であった。

3) 2)で「はい」と回答した者のうち、子どもがその困難によって動揺したり、悩んだりしているかについて、「まったくない」が 81 人(15.6%)、「すこしだけ」が 347 人(66.7%)、「かなり」が 66 人(12.7%)、「大いに」が 26 人(5.0%)であった。

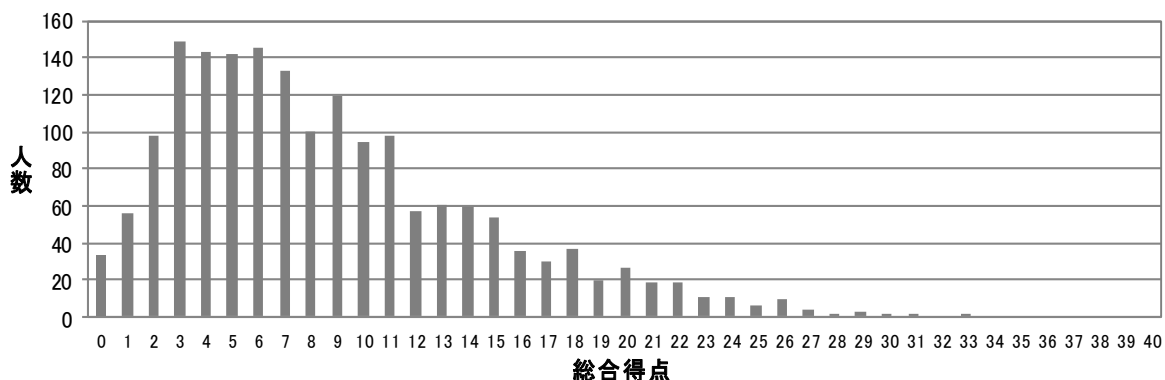


図 5 中学生の子どもの情緒と行動(SDQ): 全体

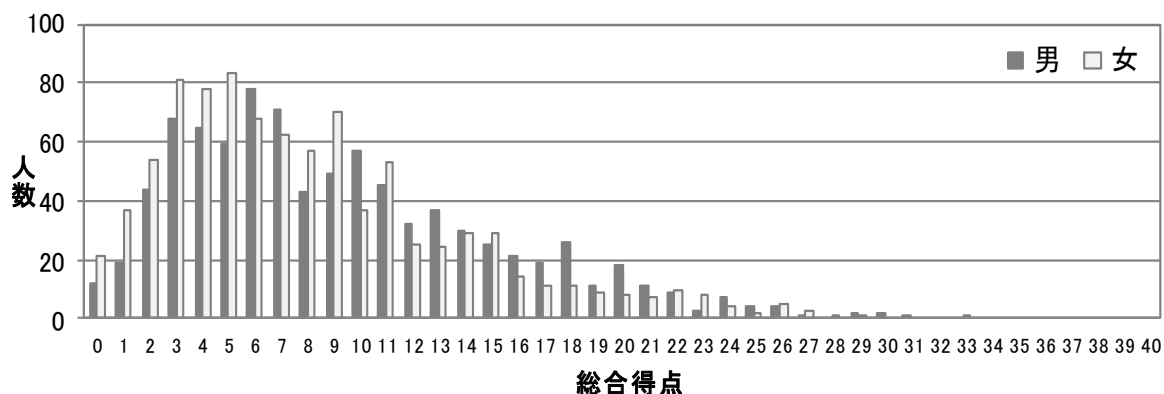


図 6 中学生の子どもの情緒と行動(SDQ): 男女別

※1 16 点: 先行研究で示されている基準

※2 20 点: 福島県立医科大学の医師等が支援を行うために設けた基準

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）」結果

こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）の対象 185,859 人のうち、有効回答は 46,377 人（25.0%）であった。内訳は、男性 20,401 人（44.0%）、女性 25,976 人（56.0%）で、平均年齢は 59.2 歳であった。

現住所は、県内 38,612 人（83.3%）、県外 7,765 人（16.7%）であった。

### 1. 健康状態について（問 1）

健康状態は、「きわめて良好」が 1,501 人（3.8%）、「良好」が 6,408 人（16.1%）、「普通」が 24,437 人（61.6%）、「悪い」が 6,714 人（16.9%）、「きわめて悪い」が 633 人（1.6%）であった。

### 2. 身長と体重について（問 2）

1) 男性の身長・体重の平均は、166.0cm・66.4kg であり、BMI の平均は、24.1 kg/m<sup>2</sup> であった。

男性の BMI 18.5 kg/m<sup>2</sup> 未満は 734 人（3.9%）、18.5 kg/m<sup>2</sup> 以上 25.0 kg/m<sup>2</sup> 未満は 11,524 人（60.7%）、25.0 kg/m<sup>2</sup> 以上 27.5 kg/m<sup>2</sup> 未満は 3,983 人（21.0%）、27.5 kg/m<sup>2</sup> 以上 30.0 kg/m<sup>2</sup> 未満は 1,732 人（9.1%）、30.0 kg/m<sup>2</sup> 以上は 1,001 人（5.3%）であった。

女性の身長・体重の平均は、153.4cm・54.3kg であり、BMI の平均は、23.1 kg/m<sup>2</sup> であった。

女性の BMI 18.5 kg/m<sup>2</sup> 未満は 1,916 人（8.1%）、18.5 kg/m<sup>2</sup> 以上 25.0 kg/m<sup>2</sup> 未満は 15,499 人（65.7%）、25.0 kg/m<sup>2</sup> 以上 27.5 kg/m<sup>2</sup> 未満は 3,378 人（14.3%）、27.5 kg/m<sup>2</sup> 以上 30.0 kg/m<sup>2</sup> 未満は 1,625 人（6.9%）、30.0 kg/m<sup>2</sup> 以上は 1,188 人（5.0%）であった。

2) 体重変化（1 年前と比べて体重に変化はありましたか）は、「3kg 以上増えた」が 7,751 人（17.6%）、「ほぼ変わらない（±3kg 以内）」が 32,024 人（72.7%）、「3kg 以上減った」が 4,274 人（9.7%）であった。

男性の体重変化は、「3kg 以上増えた」が 3,223 人（16.6%）、「ほぼ変わらない（±3kg 以内）」が 14,321 人（73.6%）、「3kg 以上減った」が 1,908 人（9.8%）であった。

女性の体重変化は、「3kg 以上増えた」が 4,528 人（18.4%）、「ほぼ変わらない（±3kg 以内）」が 17,703 人（72.0%）、「3kg 以上減った」が 2,366 人（9.6%）であった。

### 3. 既往歴について（問3）

既往歴（今まで、次のような病気にかかっていると医師に診断されたことがありますか）は、表 18 のとおりであった。

この 1 年以内に医師に診断されたものの内訳（複数回答）は表 19（次頁）のとおりであり、「いずれもなし」と回答した者は 6,172 人であった。

表 18 一般の傷病別の診断経験および通院状況（上段人数／下段割合）

傷病名	有効 回答数	診断された経験		現在の通院状況	
		ない	ある	はい	いいえ
高血圧 （または、血圧が高い）	45,078	25,684 (57.0%)	19,394 (43.0%)	17,066 (90.2%)	1,859 (9.8%)
糖尿病 （または、血糖が高い）	43,960	37,762 (85.9%)	6,198 (14.1%)	5,152 (86.7%)	788 (13.3%)
高脂血症 （または、コレステロールや中性脂肪が高い）	44,207	28,941 (65.5%)	15,266 (34.5%)	10,152 (69.2%)	4,524 (30.8%)
精神疾患	44,223	39,099 (88.4%)	5,124 (11.6%)	3,669 (75.6%)	1,187 <sup>(※)</sup> (24.4%)
がん （白血病やリンパ腫を含む）	44,453	41,598 (93.6%)	2,855 (6.4%)		
脳卒中	44,612	42,376 (95.0%)	2,236 (5.0%)		
（脳卒中の種類）複数回答					
脳こうそく			1,514		
脳出血			260		
くも膜下出血			216		
その他			25		
わからない			195		
心臓病	45,023	38,912 (86.4%)	6,111 (13.6%)		
（心臓病の種類）複数回答					
心筋梗塞			696		
狭心症			1,637		
不整脈			3,078		
その他			882		
わからない			450		
慢性肝炎	44,637	43,700 (97.9%)	937 (2.1%)		
（慢性肝炎の種類）複数回答					
B 型肝炎			280		
C 型肝炎			279		
その他			218		
肺炎 （この 10 年くらいの中で）	44,702	43,138 (96.5%)	1,564 (3.5%)		

（※）うち、589 人は、「現在は改善しているため、通院はしていない」

表 18(続き) 一般の傷病別の診断経験および通院状況(上段人数/下段割合)

傷病名	有効 回答数	診断された経験	
		ない	ある
50歳以後の骨折 (調査票記入時点で50歳以上の回答を集計)	31,693	27,907 (88.1%)	3,786 (11.9%)
甲状腺疾患	44,501	42,817 (96.2%)	1,684 (3.8%)
(甲状腺疾患種類) 複数回答 甲状腺機能亢進症(バセドウ病)			412
甲状腺機能低下症			580
その他			544

表 19 この1年以内に医師に診断された病気

病名	人数
高血圧	12,985
糖尿病	4,054
高脂血症	5,875
精神疾患	2,246
がん	1,322
脳卒中	609
心臓病	3,085
慢性肝炎	467
肺炎	657
骨折(※)	1,532
甲状腺疾患	907

(複数回答)

(※)調査票記入時点で50歳以上の回答を集計

#### 4. 検査の経験について(問4)

- 1) CT検査の経験は、「ない」が22,935人(51.1%)、「ある」が20,291人(45.2%)、「わからない」が1,686人(3.8%)であった。
- 2) 透視検査の経験は、「ない」が18,818人(42.4%)、「ある」が24,647人(55.5%)、「わからない」が958人(2.2%)であった。
- 3) 血管造影検査、核医学検査、PET検査のいずれかの経験は、「ない」が36,372人(81.9%)、「ある」が5,936人(13.4%)、「わからない」が2,126人(4.8%)であった。  
「ある」と回答した者のうち、「血管造影検査」が4,009人、「核医学検査」が484人、「PET検査」が1,458人であった。

#### 5. 病気の治療のための放射線療法の経験について(問5)

病気の治療のための放射線療法の経験は、「ない」が42,740人(95.3%)、「ある」が1,109人(2.5%)、「わからない」が1,020人(2.3%)であった。

## 6. 日常生活機能について（問6）

- 1) 日常生活機能(それぞれの行為について、ひとりでできるかどうかをお答えください)は、表 20 のとおりであった。

表 20 一般の日常生活機能(人数(割合))

日常生活での行為	ひとりでできる	ひとりではできない	有効回答数
1. 介助なしに食事をする(食事のしたくは含まない)	44,992 (98.8%)	558 (1.2%)	45,550
2. 介助なしに衣服の着替えをする	44,543 (98.1%)	871 (1.9%)	45,414
3. 介助なしにトイレで用をたす	44,721 (98.5%)	682 (1.5%)	45,403
4. 日用品の買い物をする	42,780 (94.2%)	2,610 (5.8%)	45,390

- 2) レクリエーション活動(レクリエーション活動(カラオケやゲートボール等)や地域の仕事(お祭り等)へ参加することがありますか)は、「ない、めったにない」が 27,586 人(61.1%)、「ときどき参加する」が 13,359 人(29.6%)、「よく参加する」が 4,206 人(9.3%)であった。

## 7. 睡眠について（問7）

- 1) 睡眠時間は、平均で7時間5分であった。
- 2) 睡眠満足度は、「満足している」が 15,371 人(39.7%)、「少し不満」が 17,427 人(45.0%)、「かなり不満」が 4,945 人(12.8%)、「非常に不満か、全く眠れなかった」が 1,020 人(2.6%)であった。
- 3) 睡眠に関する経験(以下の経験が少なくとも週3回以上ありましたか)は、表 21 のとおりであった。

表 21 一般の睡眠に関する経験(人数(割合))

	ある	ない	有効回答数
1. 夜、床に入ってから寝つくまでの時間がかかる	16,660 (42.0%)	22,970 (58.0%)	39,630
2. 夜間、睡眠途中で目が覚める	25,689 (64.5%)	14,163 (35.5%)	39,852
3. 希望する起床時刻より早く目覚め、それ以上眠れない	15,778 (40.3%)	23,345 (59.7%)	39,123
4. 総睡眠時間が不足する	13,766 (35.8%)	24,681 (64.2%)	38,447
5. 日中の気分がめいる	10,606 (27.8%)	27,519 (72.2%)	38,125
6. 日中の身体的および精神的な活動が低下する	11,640 (30.2%)	26,923 (69.8%)	38,563
7. 日中の眠気	18,956 (48.5%)	20,094 (51.5%)	39,050

## 8. 運動について（問8）

運動は、「ほとんど毎日している」が 7,062 人(15.5%)、「週に2~4回している」が 10,211 人(22.3%)、「週1回程度している」が 7,069 人(15.5%)、「ほとんどしていない」が 21,347 人(46.7%)であった。

## 9. 笑う機会について（問9）

笑う機会（普段の生活で、声を出して笑う機会はどのくらいありますか）は、「ほぼ毎日」が 12,452 人(27.3%)、「週に 1～5 回程度」が 18,648 人(40.8%)、「月に 1～3 回程度」が 8,792 人(19.3%)、「ほとんどない」が 5,772 人(12.6%)であった。

## 10. 喫煙について（問10）

- 1) 受動喫煙（この 10 年ほどの間に、家庭や職場などで人が吸ったタバコの煙を吸わされることがありましたか）は、「毎日」が 9,293 人(21.2%)、「週 4～5 日程度」が 2,772 人(6.3%)、「ときどき」が 12,564 人(28.7%)、「めったにない」が 19,175 人(43.8%)であった。
- 2) 震災以前の喫煙（平成 23 年 3 月 11 日の震災以前に、タバコを吸っていましたか？）は、「吸っていなかった」が 30,139 人(70.9%)、「吸っていた」が 12,391 人(29.1%)であった。
- 3) 喫煙（タバコ（紙巻きタバコ）を吸いますか。葉巻やパイプは除きます。）は、「吸ったことがない」が 22,920 人(57.4%)、「やめた」が 9,623 人(24.1%)、「吸っている」が 7,402 人(18.5%)であった。  
「吸っている」と回答した人のうち、平均 1 日本数は 16.7 本、平均喫煙年数は 28.6 年であった。

## 11. 飲酒について（問11）

- 1) 震災以前の飲酒は、「飲んでいなかった、またはほとんど飲んでいなかった（月に 1 回未満）」が 22,845 人(53.3%)、「飲んでいて（月に 1 回以上）」が 20,049 人(46.7%)であった。
- 2) 飲酒（現在、お酒（アルコール飲料）を飲みますか）は、「飲まない、または、ほとんど飲まない（月に 1 回未満）」が 22,248 人(52.6%)、「やめた」が 1,393 人(3.3%)、「飲む（月に 1 回以上）」が 18,684 人(44.1%)であった。
- 3) 「飲む（月に 1 回以上）」と回答した人のうち、お酒を飲む頻度は、週に 0 回が 1 人(0.0%)、1 回が 3,146 人(17.5%)、2 回が 1,766 人(9.8%)、3 回が 1,901 人(10.6%)、4 回が 1,072 人(6.0%)、5 回が 1,994 人(11.1%)、6 回が 2,141 人(11.9%)、7 回以上が 5,932 人(33.0%)であった。
- 4) 1 日あたりの平均飲酒量は、日本酒換算で約 1.0 合であった。飲酒（問 11 の 2）の有効回答者 42,325 人のうち 3,363 人(7.9%)が多量飲酒者（日本酒 2 合以上）であった。
- 5) 飲酒に関する経験（過去 30 日間を振り返って、次のことについてお尋ねします（CAGE:アルコール依存症に関する尺度））の各項目への回答状況は、表 22（次頁）のとおりであった。「はい」という回答を 1 点とし、4 項目の合計点を算出した。  
年代別の結果は、表 23（次頁）のとおりで、全体では 0 点が 10,295 人(60.5%)、1 点が 3,932 人(23.1%)、2 点が 1,651 人(9.7%)、3 点が 835 人(4.9%)、4 点が 298 人(1.8%)であった。男性では、0 点が 6,030 人(54.0%)、1 点が 2,944 人(26.4%)、2 点が 1,277 人(11.4%)、3 点が 678 人(6.1%)、4 点が 240 人(2.1%)であり、女性では、0 点が 4,265 人(73.0%)、1 点が 988 人(16.9%)、2 点が 374 人(6.4%)、3 点が 157 人(2.7%)、4 点が 58 人(1.0%)であった。

表 22 飲酒に関する経験(上段人数/下段割合)

		いいえ	はい	有効 回答数
1	飲酒量を減らさなければならぬと感じたことがありますか？	11,695 (68.1%)	5,470 (31.9%)	17,165
2	他人があなたの飲酒を批難するので気にさわったことがありますか？	15,345 (89.9%)	1,720 (10.1%)	17,065
3	自分の飲酒について悪いとか申し訳ないと感じたことがありますか？	14,810 (86.6%)	2,293 (13.4%)	17,103
4	神経を落ち着かせたり、二日酔いを治すために、「迎え酒」をしたことがありますか？	15,517 (90.7%)	1,586 (9.3%)	17,103

※回答数が異なるため、合計が一致しない場合がある。

表 23 年代別の飲酒に関する経験(上段人数/下段割合)

	0点	1点	2点	3点	4点	有効 回答数
20代	623 (74.7%)	122 (14.6%)	57 (6.8%)	27 (3.2%)	5 (0.6%)	834
30代	1,310 (65.0%)	389 (19.3%)	178 (8.8%)	96 (4.8%)	41 (2.0%)	2,014
40代	1,374 (61.9%)	485 (21.8%)	221 (10.0%)	95 (4.3%)	45 (2.0%)	2,220
50代	1,778 (58.0%)	778 (25.4%)	293 (9.6%)	158 (5.1%)	61 (2.0%)	3,068
60代	2,827 (57.6%)	1,188 (24.2%)	527 (10.7%)	276 (5.6%)	94 (1.9%)	4,912
70代以上	2,383 (60.1%)	970 (24.5%)	375 (9.5%)	183 (4.6%)	52 (1.3%)	3,963
全体	10,295 (60.5%)	3,932 (23.1%)	1,651 (9.7%)	835 (4.9%)	298 (1.8%)	17,011

## 12. 食生活について (問 12)

食品(飲料)および朝食、外食、調理された食品を食べる(飲む)頻度は、表 24(次頁)のとおりであった。



表 24 一般の食品(飲料)および朝食、外食、調理された食品を食べる(飲む)頻度

(上段人数/下段割合)

	食べ ない	週に 1回未満	週に 1-2回	週に 3-4回	週に 5-6回	毎日	計	
朝食	2,001 (4.4%)	506 (1.1%)	1,116 (2.5%)	1,453 (3.2%)	1,752 (3.9%)	38,175 (84.8%)	45,003	
外食	12,363 (29.6%)	18,319 (43.8%)	6,787 (16.2%)	1,502 (3.6%)	558 (1.3%)	2,270 (5.4%)	41,799	
調理された食品	6,079 (14.3%)	13,599 (31.9%)	12,721 (29.8%)	6,064 (14.2%)	1,888 (4.4%)	2,274 (5.3%)	42,625	
ごはん	386 (0.9%)	302 (0.7%)	811 (1.8%)	2,379 (5.3%)	3,964 (8.8%)	37,248 (82.6%)	45,090	
パン	4,728 (11.3%)	12,697 (30.3%)	10,708 (25.6%)	5,086 (12.1%)	2,105 (5.0%)	6,541 (15.6%)	41,865	
魚料理	723 (1.6%)	4,804 (10.9%)	14,389 (32.7%)	14,580 (33.1%)	4,137 (9.4%)	5,371 (12.2%)	44,004	
肉類	とり肉	2,770 (6.5%)	12,025 (28.0%)	18,391 (42.9%)	7,779 (18.1%)	1,143 (2.7%)	794 (1.9%)	42,902
	牛肉、豚肉	1,613 (3.7%)	7,813 (17.8%)	18,661 (42.5%)	12,597 (28.7%)	2,117 (4.8%)	1,121 (2.6%)	43,922
	ハム、ソーセージ	4,577 (10.7%)	15,078 (35.2%)	14,513 (33.8%)	6,115 (14.3%)	1,381 (3.2%)	1,232 (2.9%)	42,896
野菜	緑の葉の野菜	776 (1.7%)	4,118 (9.2%)	10,425 (23.3%)	12,188 (27.2%)	6,490 (14.5%)	10,760 (24.0%)	44,757
	赤や黄色の野菜	781 (1.8%)	5,095 (11.4%)	11,825 (26.5%)	12,625 (28.3%)	6,381 (14.3%)	7,868 (17.7%)	44,575
	淡色野菜	507 (1.1%)	2,688 (6.0%)	8,715 (19.6%)	13,568 (30.5%)	8,286 (18.6%)	10,759 (24.2%)	44,523
	野菜ジュース	18,701 (43.2%)	11,445 (26.5%)	5,595 (12.9%)	3,023 (7.0%)	1,340 (3.1%)	3,142 (7.3%)	43,246
果物	くだもの	2,989 (6.7%)	8,239 (18.5%)	9,427 (21.1%)	8,063 (18.1%)	4,591 (10.3%)	11,281 (25.3%)	44,590
	果物ジュース	17,493 (41.1%)	13,064 (30.7%)	6,375 (15.0%)	2,836 (6.7%)	1,078 (2.5%)	1,714 (4.0%)	42,560
大豆	納豆	4,331 (9.7%)	8,280 (18.5%)	11,617 (26.0%)	8,829 (19.8%)	4,201 (9.4%)	7,397 (16.6%)	44,655
	味噌汁	1,388 (3.1%)	2,923 (6.5%)	4,988 (11.1%)	6,920 (15.4%)	6,003 (13.4%)	22,707 (50.5%)	44,929
	とうふ料理	1,400 (3.1%)	7,327 (16.4%)	13,633 (30.6%)	11,832 (26.5%)	5,334 (12.0%)	5,050 (11.3%)	44,576
	煮豆料理	11,757 (27.1%)	17,279 (39.8%)	8,360 (19.2%)	3,464 (8.0%)	1,227 (2.8%)	1,344 (3.1%)	43,431
牛乳	11,826 (27.3%)	7,339 (16.9%)	5,830 (13.4%)	4,729 (10.9%)	2,858 (6.6%)	10,770 (24.8%)	43,352	
豆乳	30,240 (71.1%)	6,500 (15.3%)	2,199 (5.2%)	1,314 (3.1%)	688 (1.6%)	1,574 (3.7%)	42,515	
ヨーグルト、乳酸菌飲料	6,211 (13.9%)	7,667 (17.1%)	7,699 (17.2%)	6,346 (14.2%)	3,994 (8.9%)	12,925 (28.8%)	44,842	

※ 各項目に欠損値があるため、合計は一致しない場合がある。

### 13. 全般的な精神健康状態について（問 13）

1) 全般的な精神健康状態 (K6) は、有効回答 38,065 人のうち、13 点<sup>\*1</sup> 以上が 3,701 人 (9.7%) であった (図 7)。平均点は 5.2 点であった。

男性では有効回答 16,874 人のうち、13 点以上が 1,413 人 (8.4%) であり、女性では有効回答 21,191 人のうち、13 点以上が 2,288 人 (10.8%) であった (図 8)。男性の平均点は 4.7 点、女性の平均点は 5.6 点であった。

年齢階級別は、表 25 (次頁) のとおりである。

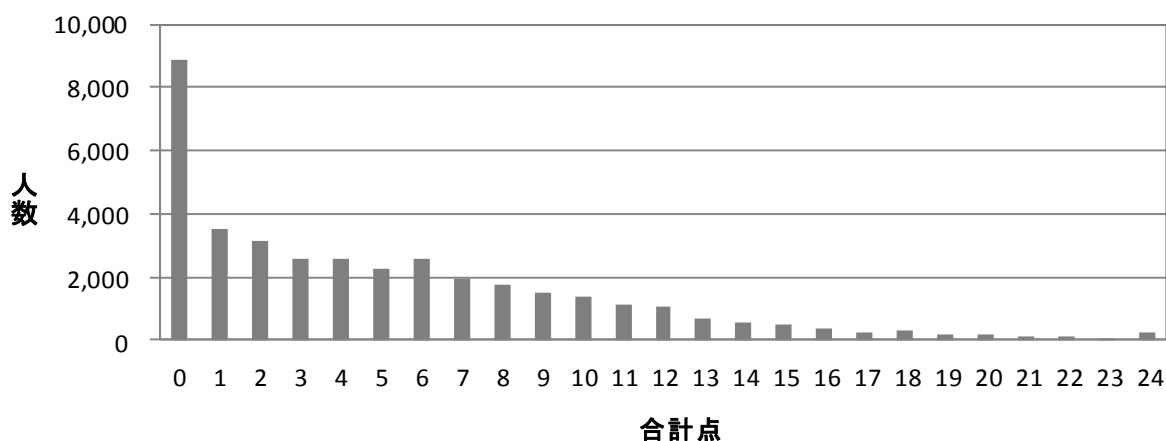


図 7 全般的な精神健康状態 (K6) : 全体

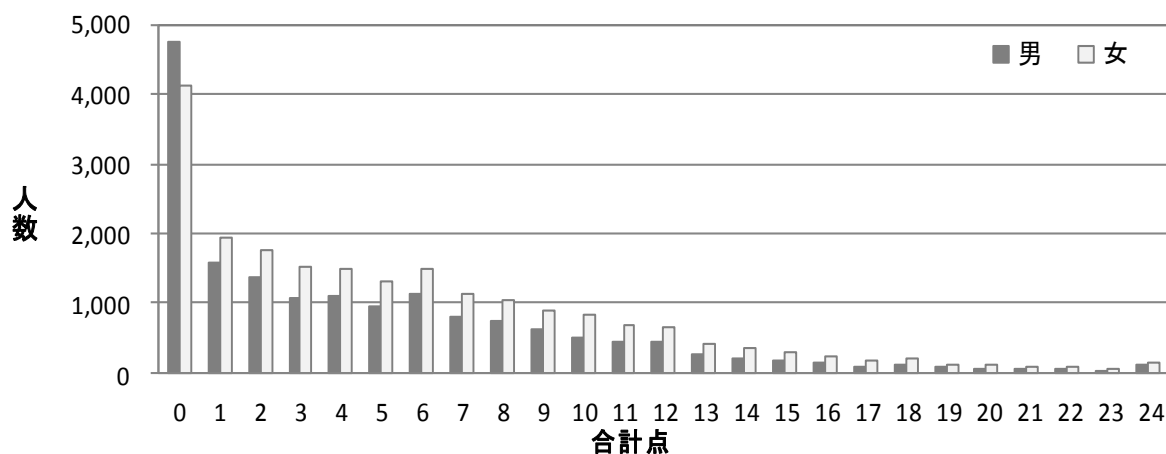


図 8 全般的な精神健康状態 (K6) : 男女別

表 25 全般的な精神健康状態(K6):年齢階級別 (人数(割合))

	13 点以上	有効回答数
10 代	47 ( 5.2%)	899
20 代	186 ( 9.2%)	2,030
30 代	408 ( 9.4%)	4,326
40 代	433 (10.1%)	4,308
50 代	582 (10.0%)	5,797
60 代	892 ( 9.0%)	9,963
70 代以上	1,153 (10.7%)	10,742

※1 13 点:先行研究で示されている基準

- 2) こうした経験・不調が原因で、日常生活に支障があったかどうかは、「全くない」が 23,481 人 (59.3%)、「少しだけ」が 9,556 人 (24.1%)、「ときどき」が 4,314 人 (10.9%)、「たいてい」が 1,032 人 (2.6%)、「いつも」が 1,188 人 (3.0%)であった。

#### 14. 震災で経験したことについて (問 14)

- 1) 震災にて経験したこと(複数回答)は、「地震」が 41,827 人、「津波」が 8,352 人、「原子力発電所事故」が 40,795 人、「いずれもなし」が 374 人であった。
- 2) 震災にて経験したことが命を脅かすような経験であったかどうかについては、「はい」が 25,102 人 (59.4%)、「いいえ」が 17,184 人 (40.6%)であった。

#### 15. トラウマ反応について (問 15)

- 1) トラウマ反応(PCL)は、有効回答 37,885 人のうち、44 点<sup>※2</sup>以上が 5,999 人 (15.8%)であった(図 9(次頁))。平均点は 30.4 点であった。  
男性では有効回答 16,749 人のうち、44 点以上が 2,423 人 (14.5%)であり、女性では有効回答 21,136 人のうち、44 点以上が 3,576 人 (16.9%)であった(図 10(次頁))。男性の平均点は 29.6 点、女性の平均点は 31.0 点であった。  
年齢階級別は、表 26(次頁)のとおりである。
- 2) こうした経験・不調が原因で、日常生活に支障があったかどうかは、「はい」が 9,074 人 (23.4%)、「いいえ」が 29,678 人 (76.6%)であった。

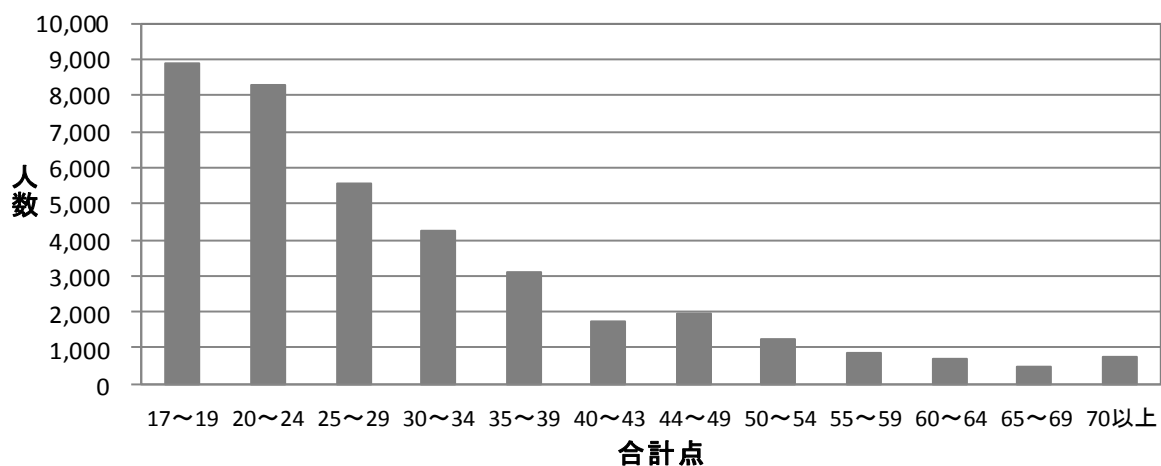


図9 一般のトラウマ反応(PCL): 全体

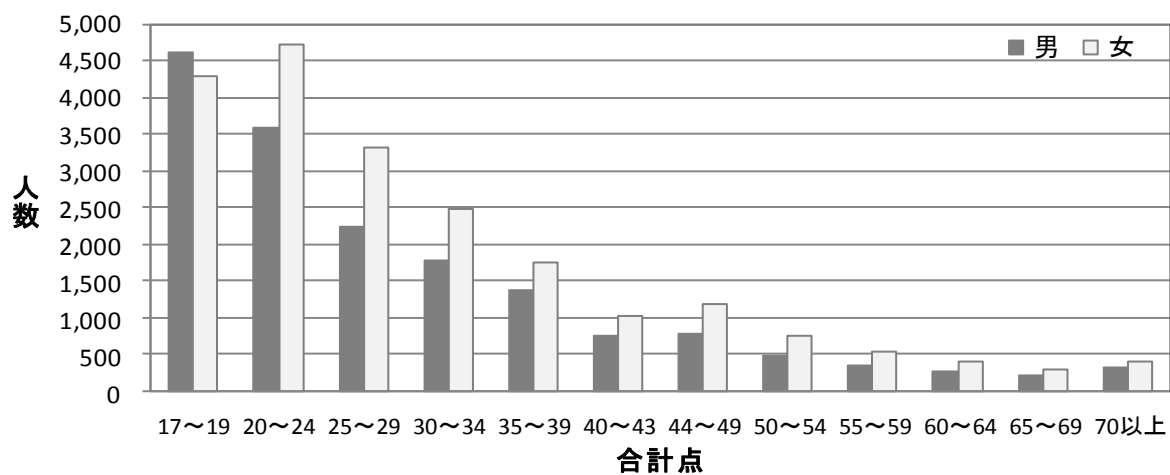


図10 一般のトラウマ反応(PCL): 男女別

表26 一般のトラウマ反応(PCL): 年齢階級別 (人数(割合))

	44点以上	有効回答数
10代	34 (3.8%)	897
20代	181 (9.0%)	2,006
30代	462 (10.7%)	4,310
40代	558 (13.0%)	4,297
50代	772 (13.4%)	5,778
60代	1,522 (15.3%)	9,974
70代以上	2,470 (23.3%)	10,623

※2 44点: 先行研究で示されている基準

## 16. 日常生活への支障について（問 16）

- 1) この1ヶ月間、日常生活に支障をきたした頻度は、「しばしばあった」が1,732人(19.6%)、「時々あった」が4,229人(47.8%)、「まれにあった」が2,284人(25.8%)、「1度もなかった」が604人(6.8%)であった。  
※2)、3)、4)の回答は、問15の2)で「はい」と回答し、問16の1)で「しばしばあった」、「時々あった」、「まれにあった」と回答した者のみとする。
- 2) 仕事、学業、家事などへの支障は、「全く支障なし」が276人(3.7%)、「軽度」が3,375人(45.2%)、「中等度」が2,563人(34.4%)、「重度」が715人(9.6%)、「極めて支障あり」が531人(7.1%)であった。
- 3) 人付き合いや余暇の過ごし方への支障は、「全く支障なし」が377人(5.0%)、「軽度」が3,147人(41.3%)、「中等度」が2,720人(35.7%)、「重度」が863人(11.3%)、「極めて支障あり」が508人(6.7%)であった。
- 4) 家族内のコミュニケーションや役割への支障は、「全く支障なし」が629人(8.3%)、「軽度」が3,016人(39.8%)、「中等度」が2,547人(33.6%)、「重度」が857人(11.3%)、「極めて支障あり」が530人(7.0%)であった。

## 17. 現在の生活状況について（問 17）

- 1) 震災のため、もともと同居していた家族と、離れて生活しているかどうかについては、「はい」が16,154人(36.1%)、「いいえ」が28,644人(63.9%)であった。
- 2) 同居の人数(自分を含めて)は、震災前が、「1人(ひとり暮らし)」が3,025人(7.1%)、「2人」が9,504人(22.3%)、「3人」が8,294人(19.5%)、「4人」が7,387人(17.3%)、「5人」が5,434人(12.8%)、「6人」が4,465人(10.5%)、「7人」が2,804人(6.6%)、「8人」が1,105人(2.6%)、「9人」が368人(0.9%)、「10人以上」が212人(0.5%)であった。  
現在は、「1人(ひとり暮らし)」が5,993人(13.7%)、「2人」が15,278人(34.9%)、「3人」が9,027人(20.6%)、「4人」が6,358人(14.5%)、「5人」が3,517人(8.0%)、「6人」が2,050人(4.7%)、「7人」が1,057人(2.4%)、「8人」が330人(0.8%)、「9人」が144人(0.3%)、「10人以上」が70人(0.2%)であった。
- 3) 現在の住まい(複数回答)は、「借上住宅」が12,199人、「仮設住宅」が6,713人、「復興公営住宅」が333人、「借家・アパート」が6,008人、「親戚宅」が1,146人、「持家」が18,542人、「その他」が671人であった。
- 4) 震災から現在までの転居回数は、0回が5,110人(12.1%)、1回が5,136人(12.2%)、2回が5,750人(13.6%)、3回が7,050人(16.7%)、4回が6,274人(14.9%)、5回が5,379人(12.8%)、6回以上が7,454人(17.7%)であった。
- 5) 勤務形態は、「常勤・自営」が12,381人(28.6%)、「パート」が3,636人(8.4%)、「無職(学生、専業主婦を含む)」が27,322人(63.0%)であった。
- 6) 仕事の状況(震災や原発事故によってお仕事の状況は変わりましたか)は、「変わった」が18,567人(47.6%)、「変わらない」が20,435人(52.4%)であった。

- 7) 「変わった」と回答した者のうち、どのように変わったか(複数回答)については、「新しく仕事を始めた」が2,352人、「失業した」が8,874人、「転職した」が2,575人、「同じ会社・組織内での配置換え」が2,726人、「その他」が4,070人であった。
- 8) 現在の暮らし向きを経済的にみてどう感じているかについては、「苦しい」が5,892人(14.1%)、「やや苦しい」が10,969人(26.2%)、「普通」が23,066人(55.1%)、「ややゆとりがある」が1,438人(3.4%)、「ゆとりがある」が498人(1.2%)であった。

## 18. 人とのつながりについて (問 18)

現在の生活における人とのつながり(LSNS-6)については、有効回答 39,833 人のうち、12 点<sup>※3</sup>未満が 15,812 人(39.7%)であった(図 11)。平均点は 13.1 点であった。

男性では有効回答 17,392 人のうち、12 点未満が 7,359 人(42.3%)であり、女性では有効回答 22,441 人のうち、12 点未満が 8,453 人(37.7%)であった(図 12)。男性の平均点は 12.8 点、女性の平均点は 13.3 点であった。

年齢階級別は、表 27(次頁)のとおりである。

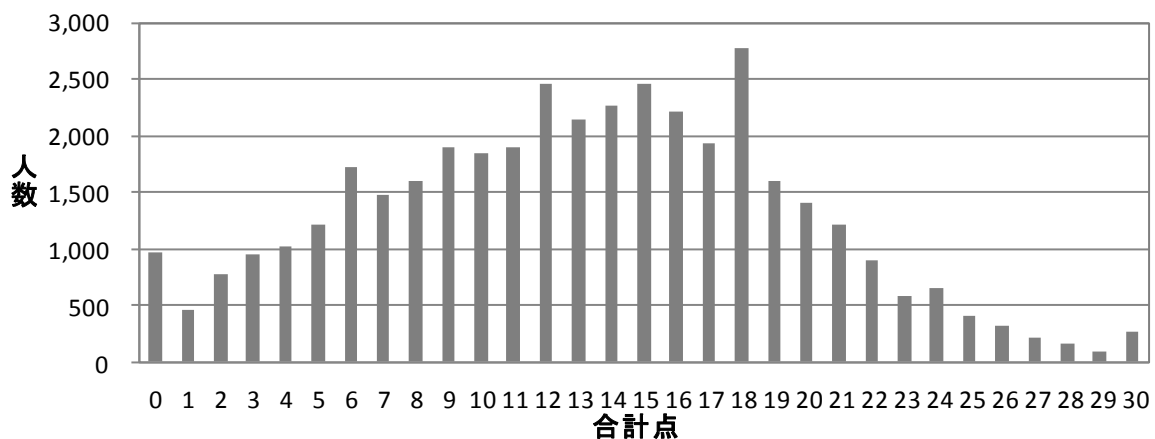


図 11 人とのつながり(LSNS-6): 全体

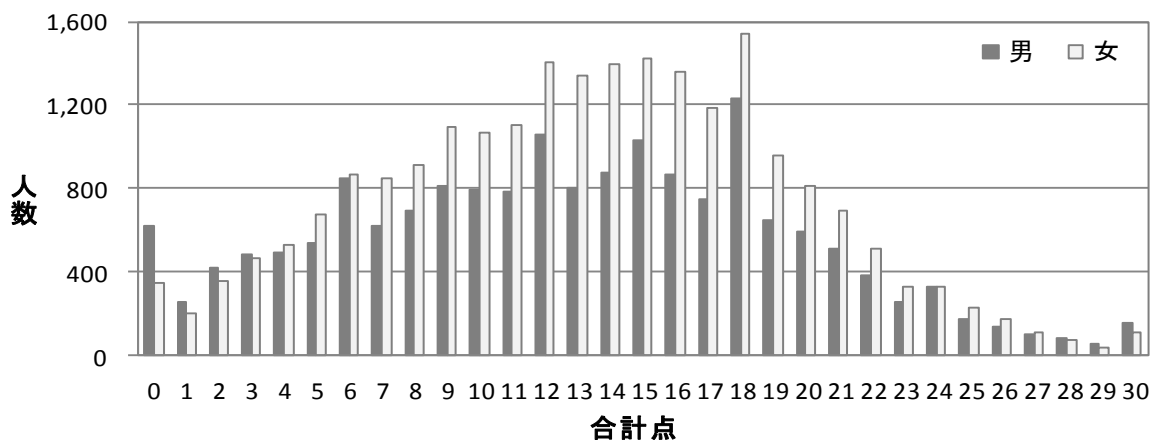


図 12 人とのつながり(LSNS-6): 男女別

表 27 人とのつながり(LSNS-6):年齢階級別 (人数(割合))

	12 点未満	12 点以上	有効回答数
10 代	246 (26.9%)	670 (73.1%)	916
20 代	813 (39.5%)	1,246 (60.5%)	2,059
30 代	2,096 (47.9%)	2,278 (52.1%)	4,374
40 代	2,441 (56.0%)	1,917 (44.0%)	4,358
50 代	3,011 (50.8%)	2,922 (49.2%)	5,933
60 代	3,981 (38.2%)	6,452 (61.8%)	10,433
70 代以上	3,224 (27.4%)	8,536 (72.6%)	11,760

※3 12 点:先行研究で示されている基準

## 19. 現在住んでいる地域について (問 19)

現在住んでいる地域(あなたが現在お住まいの地域について、お尋ねします)については、表 28 のとおりであった。

表 28 現在住んでいる地域について

		強くそう 思う	どちらか といえば そう思う	どちらと もいえな い	どちらか といえば そう思わ ない	全くそう 思わない	有効 回答数
1	この地域の人々はお互いに 助け合っている	4,483 (10.1%)	16,914 (38.2%)	14,844 (33.5%)	4,166 (9.4%)	3,877 (8.8%)	44,284
2	この地域の人々は信頼できる	3,872 (8.8%)	15,924 (36.1%)	17,533 (39.7%)	3,670 (8.3%)	3,149 (7.1%)	44,148
3	この地域の人々はお互いに あいさつをしている	8,355 (18.8%)	22,780 (51.3%)	8,984 (20.2%)	2,610 (5.9%)	1,690 (3.8%)	44,419
4	この地域で問題が生じた 場合、人々は力を合わせて 解決しようとする	4,672 (10.6%)	16,614 (37.7%)	16,080 (36.5%)	3,451 (7.8%)	3,260 (7.4%)	44,077

## 20. 放射線の健康影響についての認識について（問 20）

放射線の健康影響についての認識は、表 29 のとおりであった。

表 29 放射線の健康影響についての認識(上段人数/下段割合)

		可能性は 極めて 低い	←	→	可能性は 非常に 高い	有効 回答数
1	現在の放射線被ばくで、後年に生じる健康障害(例えば、がんの発症など)がどのくらい起こると思いますか。	10,809 (27.9%)	12,557 (32.4%)	8,365 (21.6%)	6,979 (18.0%)	38,710
2	現在の放射線被ばくで、次世代以降の人(将来生まれてくる自分の子や孫など)への健康影響がどれくらい起こると思いますか。	8,218 (21.4%)	11,705 (30.5%)	9,951 (25.9%)	8,508 (22.2%)	38,382





## 平成 25 年度 県民健康調査

### 「こころの健康度・生活習慣に関する調査」

#### 資 料



平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（0 歳～3 歳用）」資料

		人数	割合	
性別	(有効回答 1,634人)	・男児 824	50.4%	
(平均年齢 2.0歳)		・女児 810	49.6%	
住所別	(有効回答 1,634人)	・県内 1,191	72.9%	
		・県外 443	27.1%	
問1 健康状態	(有効回答 1,601人)	・きわめて良好 521	32.5%	
		・良好 681	42.5%	
		・普通 381	23.8%	
		・悪い 18	1.1%	
		・きわめて悪い 0	0.0%	
問2 身長と体重		(性別年齢階級別 ※本文中に掲載)	—	
問3 治療中の病気	(有効回答 1,621人)	・ない 1,158	71.4%	
		・ある 463	28.6%	
		(内訳 ※本文中に掲載)		
問4 入院の経験	(有効回答 1,629人)	・ない 1,238	76.0%	
		・ある 391	24.0%	
		(内訳 ※本文中に掲載)		
問5 検査の経験				
1) CT検査	(有効回答 1,629人)	・ない 1,516	93.1%	
		・ある 70	4.3%	
		・わからない 43	2.6%	
2) X線を使った検査	(有効回答 1,604人)	・ない 1,486	92.6%	
		・ある(※ある場合の検査内容)	60	3.7%
		(透視検査)	(43)	—
		(血管造影検査)	(9)	—
		(核医学検査)	(2)	—
		・わからない 58	3.6%	
問6 放射線療法の経験	(有効回答 1,628人)	・ない 1,604	98.5%	
		・ある 4	0.2%	
		・わからない 20	1.2%	
問7 睡眠時間と昼寝の有無				
1) 睡眠時間	(有効回答 1,624人)	・平均睡眠時間 9時間 59分		
	(有効回答 1,632人)	・平均就寝時刻 午後 9時 11分		
	(有効回答 1,631人)	・平均起床時刻 午前 7時 14分		
2) 昼寝の有無	(有効回答 1,619人)	・いいえ 215	13.3%	
	(有効回答 1,382人)	・はい 1,404	86.7%	
		(平均昼寝時間 1時間53分)		
問8 普段の運動量	(有効回答 1,119人)	・ほとんど毎日している 504	45.0%	
		・週に2～4回している 355	31.7%	
		・週1回程度している 144	12.9%	
		・ほとんどしていない 116	10.4%	
問9 食生活				
1) 母乳による授乳	(有効回答 1,564人)	・はい 225	14.4%	
		・いいえ 1,339	85.6%	
2) 食品等を食べる頻度	—	・本文中に掲載	—	
問10 育児	(有効回答 1,630人)	・はい 207	12.7%	
		・いいえ 710	43.6%	
		・何ともいえない 713	43.7%	

※()は内数

## 平成25年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（4歳～6歳用）」資料

		人数	割合	
性別 (平均年齢 4.8歳)	(有効回答 2,032人)	・男児 1,022	50.3%	
		・女児 1,010	49.7%	
住所別	(有効回答 2,032人)	・県内 1,409	69.3%	
		・県外 623	30.7%	
問1 健康状態	(有効回答 1,983人)	・きわめて良好 534	26.9%	
		・良好 827	41.7%	
		・普通 591	29.8%	
		・悪い 28	1.4%	
		・きわめて悪い 3	0.2%	
問2 身長と体重		(性別年齢階級別 ※本文中に掲載)	—	
問3 治療中の病気	(有効回答 2,021人)	・ない 1,278	63.2%	
		・ある 743	36.8%	
		(内訳 ※本文中に掲載)		
問4 入院の経験	(有効回答 2,025人)	・ない 1,415	69.9%	
		・ある 610	30.1%	
		(内訳 ※本文中に掲載)		
問5 検査の経験	1) CT検査 (有効回答 2,019人)	・ない 1,826	90.4%	
		・ある 129	6.4%	
		・わからない 64	3.2%	
2) X線を使った検査 (有効回答 2,000人)	・ない 1,828	・ある(※ある場合の検査内容) 102	91.4%	
			(透視検査) (76)	—
			(血管造影検査) (14)	—
			(核医学検査) (3)	—
			・わからない 70	3.5%
問6 放射線療法の経験	(有効回答 2,014人)	・ない 1,975	98.1%	
		・ある 2	0.1%	
		・わからない 37	1.8%	
問7 睡眠時間と昼寝の有無	1) 睡眠時間 (有効回答 2,028人)	・平均睡眠時間 9時間44分		
		(有効回答 2,031人)	・平均就寝時刻 午後9時11分	
		(有効回答 2,031人)	・平均起床時刻 午前6時56分	
	2) 昼寝の有無 (有効回答 2,009人)	・いいえ 1,272	63.3%	
		・はい 737	36.7%	
		(有効回答 697人)	(平均昼寝時間 1時間39分)	
問8 普段の運動量	(有効回答 1,929人)	・ほとんど毎日している 791	41.0%	
		・週に2～4回している 610	31.6%	
		・週1回程度している 249	12.9%	
		・ほとんどしていない 279	14.5%	
問9 食生活				
食品等を食べる頻度	—	・本文中に掲載	—	
問10 SDQ	(有効回答 2,027人)	・平均総合得点 9.7点		
		1) SDQ (有効回答 1,020人)	・平均総合得点 男 10.4点	
	(有効回答 1,007人)	・平均総合得点 女 9.0点		
2) 困難の有無および程度	(有効回答 2,019人)	・16点以上 288	14.2%	
		(男) (170)	—	
		(女) (118)	—	
		・20点以上 110	5.4%	
		(男) (69)	—	
(女) (41)	—			
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 497人)	・いいえ 1,504	74.5%	
		・はい(ささいな困難) 427	21.1%	
		・はい(明らかな困難) 76	3.8%	
		・はい(深刻な困難) 12	0.6%	
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 497人)	・まったくない 197	39.6%	
		・すこしだけ 270	54.3%	
		・かなり 24	4.8%	
		・大いに 6	1.2%	

※()は内数

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（小学生用）」資料

		人数	割合
性別 (平均年齢 9.4歳)	(有効回答 3,987人)	・男児	2,054 51.5%
		・女児	1,933 48.5%
住所別	(有効回答 3,987人)	・県内	2,932 73.5%
		・県外	1,055 26.5%
問1 健康状態	(有効回答 3,828人)	・きわめて良好	882 23.0%
		・良好	1,680 43.9%
		・普通	1,208 31.6%
		・悪い	50 1.3%
		・きわめて悪い	8 0.2%
問2 身長と体重		(性別年齢階級別 ※本文中に掲載)	—
問3 治療中の病気	(有効回答 3,942人)	・ない	2,492 63.2%
		・ある	1,450 36.8%
		(内訳 ※本文中に掲載)	
問4 入院の経験	(有効回答 3,955人)	・ない	2,528 63.9%
		・ある	1,427 36.1%
		(内訳 ※本文中に掲載)	
問5 検査の経験			
	1) CT検査	(有効回答 3,947人)	・ない 3,284 83.2%
		・ある 479 12.1%	
		・わからない 184 4.7%	
2) X線を使った検査	(有効回答 3,897人)	・ない	3,466 88.9%
		・ある(※ある場合の検査内容)	220 5.6%
		(透視検査)	(147) —
		(血管造影検査)	(36) —
		(核医学検査)	(14) —
		・わからない 211 5.4%	
問6 放射線療法の経験	(有効回答 3,932人)	・ない 3,824 97.3%	
		・ある 6 0.2%	
		・わからない 102 2.6%	
問7 睡眠時間と昼寝の有無			
1) 睡眠時間	(有効回答 3,959人)	・平均睡眠時間 8時間54分	
	(有効回答 3,966人)	・平均就寝時刻 午後9時31分	
	(有効回答 3,966人)	・平均起床時刻 午前6時27分	
問8 普段の運動量	(有効回答 3,734人)	・ほとんど毎日している 294 7.9%	
		・週に2~4回している 1,033 27.7%	
		・週1回程度している 940 25.2%	
		・ほとんどしていない 1,467 39.3%	
問9 食生活			
食品等を食べる頻度	—	・本文中に掲載	—
問10 SDQ	(有効回答 3,974人)	・平均総合得点 9.4点	
1) SDQ	(有効回答 2,044人)	・平均総合得点 男 10.0点	
	(有効回答 1,930人)	・平均総合得点 女 8.8点	
		・16点以上 583 14.7%	
		(男) (346) —	
		(女) (237) —	
		・20点以上 226 5.7%	
		(男) (146) —	
		(女) (80) —	
2) 困難の有無および程度	(有効回答 3,966人)	・いいえ 2,750 69.3%	
		・はい(ささいな困難) 988 24.9%	
		・はい(明らかな困難) 183 4.6%	
		・はい(深刻な困難) 45 1.1%	
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 1,170人)	・まったくない 277 23.7%	
		・すこしだけ 785 67.1%	
		・かなり 87 7.4%	
		・大いに 21 1.8%	

※()は内数

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（中学生用）」資料

		人数	割合
性別 (平均年齢 13.9歳)	(有効回答 1,820人)	・男子	890 48.9%
		・女子	930 51.1%
住所別	(有効回答 1,820人)	・県内	1,425 78.3%
		・県外	395 21.7%
問1 健康状態	(有効回答 1,124人)	・きわめて良好	341 30.3%
		・良好	344 30.6%
		・普通	406 36.1%
		・悪い	30 2.7%
		・きわめて悪い	3 0.3%
問2 身長と体重		(性別年齢階級別 ※本文中に掲載)	—
問3 睡眠			
1) 睡眠時間	(有効回答 1,137人)	・平均睡眠時間 7時間 8分	
2) 睡眠(最近)1カ月間	(有効回答 1,139人)	・十分だと思う	504 44.2%
		・やや足りない	520 45.7%
		・足りない	115 10.1%
問4 運動	(有効回答 1,142人)	・ほとんど毎日している	538 47.1%
		・週に2~4回している	159 13.9%
		・週1回程度している	91 8.0%
		・ほとんどしていない	354 31.0%
		・本文中に掲載	—
問5 食生活	—	・本文中に掲載	—
問6 震災での経験	※複数回答	・地震	1,076 —
		・津波	155 —
		・原子力発電所事故	1,027 —
		・いずれもなし	2 —
問7 治療中の病気	(有効回答 1,777人)	・ない	1,258 70.8%
		・ある	519 29.2%
		(内訳 ※本文中に掲載)	
問8 入院の経験	(有効回答 1,777人)	・ない	1,140 64.2%
		・ある	637 35.8%
		(内訳 ※本文中に掲載)	
問9 検査の経験			
1) CT検査	(有効回答 1,769人)	・ない	1,420 80.3%
		・ある	282 15.9%
		・わからない	67 3.8%
2) X線を使った検査	(有効回答 1,750人)	・ない	1,556 88.9%
		・ある(※ある場合の検査内容)	113 6.5%
		(透視検査)	(80) —
		(血管造影検査)	(25) —
		(核医学検査)	(3) —
・わからない	81 4.6%		
問10 放射線療法の経験	(有効回答 1,764人)	・ない	1,723 97.7%
		・ある	5 0.3%
		・わからない	36 2.0%
問11 SDQ	(有効回答 1,776人)	・平均総合得点 8.7点	
1) SDQ	(有効回答 873人)	・平均総合得点 男 9.3点	
	(有効回答 903人)	・平均総合得点 女 8.2点	
2) 困難の有無の程度	(有効回答 1,770人)	・16点以上	234 13.2%
		(男)	(139) —
		(女)	(95) —
		・20点以上	112 6.3%
		(男)	(62) —
(女)	(50) —		
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 520人)	・いいえ	1,231 69.5%
		・はい(ささいな困難)	384 21.7%
		・はい(明らかな困難)	100 5.6%
		・はい(深刻な困難)	55 3.1%
3) 困難による動揺の程度	(有効回答 520人)	・まったくない	81 15.6%
		・すこしだけ	347 66.7%
		・かなり	66 12.7%
		・大いに	26 5.0%

※()は内数

## 平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査（一般用）」資料

			人数	割合
性別	(有効回答 46,377人)	・男性	20,401	44.0%
(平均年齢 59.2歳)		・女性	25,976	56.0%
住所別	(有効回答 46,377人)	・県内	38,612	83.3%
		・県外	7,765	16.7%
問1 健康状態	(有効回答 39,693人)	・きわめて良好	1,501	3.8%
		・良好	6,408	16.1%
		・普通	24,437	61.6%
		・悪い	6,714	16.9%
		・きわめて悪い	633	1.6%
問2 身長と体重	—	・本文中に掲載		—
問3 既往歴	—	・本文中に掲載		—
問4 検査の経験				
1)CT検査	(有効回答 44,912人)	・ない	22,935	51.1%
		・ある	20,291	45.2%
		・わからない	1,686	3.8%
2)透視検査	(有効回答 44,423人)	・ない	18,818	42.4%
		・ある	24,647	55.5%
		・わからない	958	2.2%
3)その他検査	(有効回答 44,434人)	・ない	36,372	81.9%
		・ある(※ある場合の検査内容)	5,936	13.4%
		(血管造影検査)	(4,009)	—
		(核医学検査)	(484)	—
		(PET検査)	(1,458)	—
		・わからない	2,126	4.8%
問5 放射線療法の経験	(有効回答 44,869人)	・ない	42,740	95.3%
		・ある	1,109	2.5%
		・わからない	1,020	2.3%
問6 日常生活機能				
1)日常生活機能	—	・本文中に掲載		—
2)レクリエーション参加	(有効回答 45,151人)	・ない、めったにない	27,586	61.1%
		・ときどき参加する	13,359	29.6%
		・よく参加する	4,206	9.3%
問7 睡眠				
1)睡眠時間	(有効回答 44,744人)	・平均睡眠時間 7時間 5分		
2)睡眠(最近)1カ月間	(有効回答 38,763人)	・満足している	15,371	39.7%
		・少し不満	17,427	45.0%
		・かなり不満	4,945	12.8%
		・非常に不満か、全く眠れなかった	1,020	2.6%
3)睡眠に関する経験	—	・本文中に掲載		—
問8 運動	(有効回答 45,689人)	・ほとんど毎日している	7,062	15.5%
		・週に2～4回している	10,211	22.3%
		・週1回程度している	7,069	15.5%
		・ほとんどしていない	21,347	46.7%
問9 笑う機会	(有効回答 45,664人)	・ほぼ毎日	12,452	27.3%
		・週に1～5回程度	18,648	40.8%
		・月に1～3回程度	8,792	19.3%
		・ほとんどない	5,772	12.6%

※()は内数



		人数	割合
問10 喫煙			
1) 受動喫煙	(有効回答 43,804人)	・毎日 ・週4-5日程度 ・ときどき ・めったにない	9,293 21.2% 2,772 6.3% 12,564 28.7% 19,175 43.8%
2) 喫煙(震災以前)	(有効回答 42,530人)	・吸っていなかった ・吸っていた	30,139 70.9% 12,391 29.1%
3) 喫煙	(有効回答 39,945人)	・吸ったことがない ・やめた ・吸っている (平均1日本数 16.7本) (平均喫煙年数 28.6年)	22,920 57.4% 9,623 24.1% 7,402 18.5% — —
問11 お酒			
1) アルコール飲料の飲酒 (震災以前)	(有効回答 42,894人)	・飲んでいなかった、または、ほとんど飲んでいなかった ・飲んでいた(月1回以上)	22,845 53.3% 20,049 46.7%
2) アルコール飲料の飲酒	(有効回答 42,325人)	・飲まない、または、ほとんど飲まない ・やめた ・飲む(月1回以上) (飲む酒類と頻度 ※本文中に掲載)	22,248 52.6% 1,393 3.3% 18,684 44.1% —
3) 飲酒の頻度	(有効回答 17,953人)	・本文中に掲載	—
4) 1日あたりの飲酒量	(有効回答 16,991人)	・平均1.0合	—
5) 飲酒に関する経験	(有効回答 17,011人)	・本文中に掲載	—
問12 食生活	※複数回答	・本文中に掲載	—
問13 精神健康状態(K6)			
1) 精神健康状態(K6)	(有効回答 38,065人) (有効回答 16,874人) (有効回答 21,191人)	・平均点 5.2点 ・平均点 男 4.7点 ・平均点 女 5.6点 ・13点以上 (男) (女) (年齢階級別 ※本文中に掲載)	3,701 9.7% (1,413) — (2,288) — —
2) 日常生活での支障の程度	(有効回答 39,571人)	・全くない ・少しだけ ・ときどき ・たいてい ・いつも	23,481 59.3% 9,556 24.1% 4,314 10.9% 1,032 2.6% 1,188 3.0%
問14 東日本大震災について			
1) 震災での経験	※複数回答	・地震 ・津波 ・原子力発電所事故 ・いずれもなし	41,827 — 8,352 — 40,795 — 374 —
2) 命を脅かすような経験	(有効回答 42,286人)	・はい ・いいえ	25,102 59.4% 17,184 40.6%
問15 トラウマ反応(PCL)			
1) トラウマ反応(PCL)	(有効回答 37,885人) (有効回答 16,749人) (有効回答 21,136人)	・平均点 30.4点 ・平均点 男 29.6点 ・平均点 女 31.0点 ・44点以上 (男) (女) (年齢階級別 ※本文中に掲載)	5,999 15.8% (2,423) — (3,576) — —
2) 日常生活での支障の有無	(有効回答 38,752人)	・はい ・いいえ	9,074 23.4% 29,678 76.6%
問16 日常生活への支障(PCL)			
1) 日常生活での支障の頻度	(有効回答 8,849人)	・しばしばあった ・時々あった ・まれにあった ・1度もなかった	1,732 19.6% 4,229 47.8% 2,284 25.8% 604 6.8%

※()は内数

		人数	割合
問16 日常生活への支障(PCL)			
2) 仕事/学業での支障の程度	(有効回答 7,460人)	・全く支障なし	276 3.7%
		・軽度	3,375 45.2%
		・中等度	2,563 34.4%
		・重度	715 9.6%
		・極めて支障あり	531 7.1%
3) 社会生活での支障の程度	(有効回答 7,615人)	・全く支障なし	377 5.0%
		・軽度	3,147 41.3%
		・中等度	2,720 35.7%
		・重度	863 11.3%
		・極めて支障あり	508 6.7%
4) 家族内のコミュニケーションや役割での支障の程度	(有効回答 7,579人)	・全く支障なし	629 8.3%
		・軽度	3,016 39.8%
		・中等度	2,547 33.6%
		・重度	857 11.3%
		・極めて支障あり	530 7.0%
問17 現在の生活状況について			
1) 家族との生活状況	(有効回答 44,798人)	・はい	16,154 36.1%
		・いいえ	28,644 63.9%
2) 同居人数	(有効回答 42,598人)	・1人(ひとり暮らし)	3,025 7.1%
震災前		・2人	9,504 22.3%
		・3人以上	30,069 70.6%
		※詳細は本文中に掲載	
現在	(有効回答 43,824人)	・1人(ひとり暮らし)	5,993 13.7%
		・2人	15,278 34.9%
		・3人以上	22,553 51.5%
		※詳細は本文中に掲載	
3) 現在の住まい	※複数回答	・借上住宅	12,199 —
		・仮設住宅	6,713 —
		・復興公営住宅	333 —
		・借家・アパート	6,008 —
		・親戚宅	1,146 —
		・持家	18,542 —
		・その他	671 —
4) 震災からの転居回数	(有効回答 42,153人)	・0回	5,110 12.1%
		・1回	5,136 12.2%
		・2回	5,750 13.6%
		・3回	7,050 16.7%
		・4回	6,274 14.9%
		・5回	5,379 12.8%
		・6回以上	7,454 17.7%
5) 勤務形態	(有効回答 43,339人)	・常勤・自営	12,381 28.6%
		・パート	3,636 8.4%
		・無職(学生、専業主婦を含む)	27,322 63.0%
6) 仕事の状況	(有効回答 39,002人)	・変わった	18,567 47.6%
		・変わらない	20,435 52.4%
7) 仕事の変化	※複数回答	・新しく仕事を始めた	2,352 —
		・失業した	8,874 —
		・転職した	2,575 —
		・配置換えがあった	2,726 —
		・その他	4,070 —
8) 現在のくらし向き	(有効回答 41,863人)	・苦しい	5,892 14.1%
		・やや苦しい	10,969 26.2%
		・普通	23,066 55.1%
		・ややゆとりがある	1,438 3.4%
		・ゆとりがある	498 1.2%
問18 人とのつながり(LSNS-6)			
	(有効回答 39,833人)	・平均点	13.1点
	(有効回答 17,392人)	・平均点 男	12.8点
	(有効回答 22,441人)	・平均点 女	13.3点
		・12点未満	15,812 39.7%
		(男)	(7,359) —
		(女)	(8,453) —
		(年齢階級別 ※本文中に掲載)	—
問19 現在住んでいる地域について	—	・本文中に掲載	—
問20 放射線の健康影響	—	・本文中に掲載	—
問21～24	—	・省略	—



平成 25 年度 県民健康調査  
「こころの健康度・生活習慣に関する調査」  
支援実施報告

## 1. 目的

平成 23 年 3 月 11 日発生 of 東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所爆発事故以降、放射線への不安、避難生活、財産の喪失及び恐怖体験等により、精神的苦痛や心的外傷(トラウマ)を負った県民のこころの健康度や生活習慣を把握し、適切なケアを提供するため、平成 23 年度から県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」を実施し、支援を行っている。

こころのケアについては、中・長期の対策が必要であり、そのためには「こころ」や「からだ」の健康状態について、継続した見守り・支援を行っていることを対象者へ伝えるとともに、「こころ」や「からだ」の変化やその要因を把握し、状況に応じた適切な支援を実施する必要があることから、今年度も引き続き質問紙による調査を行った。

調査後、回答内容を福島県立医科大学の医師等が評価・分析し、こころの健康度及び生活習慣上、相談・支援の必要があると判断された方々に、状況改善及び保健・医療機関につなげることを目的として、臨床心理士、保健師、看護師等による「こころの健康支援チーム」が電話相談等を実施した。

## 2. 方法

### 1) 支援対象

国が指定した避難区域等の住民及び生年月日が平成 25 年 4 月 1 日以前の者を対象とした、平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の回答者の中から、「こころの健康支援チーム」が質問紙調査への回答内容について、下記の基準により判断し、支援対象を選定した。なお、調査票は以下の区分に分けられる。

0歳～3歳用 :平成 22 年 4 月 2 日から平成 25 年 4 月 1 日までに生まれた者

4歳～6歳用 :平成 19 年 4 月 2 日から平成 22 年 4 月 1 日までに生まれた者

小学生用 :平成 13 年 4 月 2 日から平成 19 年 4 月 1 日までに生まれた者

中学生用 :平成 10 年 4 月 2 日から平成 13 年 4 月 1 日までに生まれた者

一般用 :平成 10 年 4 月 1 日以前に生まれた者

### 2) 選定基準

支援は、緊急性の高さや状態の重症度に応じ、電話または文書による支援を行った。

以下、「子ども」は中学生以下の調査票対象者、「一般」は一般調査票対象者を指す。

選定基準は、a)尺度の得点、b)尺度以外の項目によって定めた。

#### ア) 電話による支援(以下、電話支援)

##### a) 尺度の得点による支援基準

子ども:SDQ(子どもの情緒と行動に関する尺度)が 20 点以上に該当する者。

- 一 般:K6(気分の落ち込みや不安など、全般的な精神健康状態に関する尺度)が 13 点以上かつ PCL(トラウマ反応に関する尺度)が 50 点以上に該当する者。及び PCL の点数に関わらず K6 が 17 点以上に該当する者。

#### **b) 尺度以外の項目による支援基準**

- 子ども:自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された者のうち、緊急性の高い者。
- 一 般:高血圧または糖尿病の既往歴があり、通院をしていないと回答した者の中で、Body Mass Index (BMI:調査票内の身長及び体重から算出)が  $27.5\text{kg/m}^2$  以上かつ震災後の体重増加が 3kg 以上の者、あるいは飲酒量が一日平均 3 合以上の者。  
精神疾患の既往歴があり、通院をしていないと回答した者。  
自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された者のうち、緊急性の高い者。

### **イ) 文書による支援(以下、文書支援)**

#### **a) 尺度の得点による支援基準**

- 子ども:SDQ が 16 点以上(先行研究における基準値)で、前述の電話による支援の基準に該当しない者。
- 一 般:K6 が 13 点以上または PCL が 44 点以上(先行研究における基準値)で、前述の電話による支援の基準に該当しない者。

#### **b) 尺度以外の項目による支援基準**

- 子ども:自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された者のうち、緊急性の低い者。
- 一 般:必要な医療受診をしていない者、及び睡眠の質に満足しておらず日中に気分が滅入ったり活動量が低下したりする者のうち、前述の支援基準に該当しない者。  
CAGE(アルコール依存症に関する尺度)が 4 点満点中 2 点以上の者。  
自由記載及び欄外記載の内容から、支援が必要であると判断された者のうち、緊急性の低い者。

文書支援対象者には、相談窓口として「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の専用ダイヤルを案内する文書とともに、電話支援希望の有無を確認する返信用ハガキを同封して送付した。返信されたハガキに電話支援希望の記載がある者、もしくは「こころの健康支援チーム」が返信内容から支援が必要と判断した者に電話支援を行った。

### 3) 支援結果の分類と支援後の対応

電話支援を行った結果については、「経過観察1」「経過観察2」「経過観察3」「支援希望なし」の4つに分類した。支援後の対応では、継続した支援が必要であると判断される場合には、電話支援の継続や市町村・ふくしま心のケアセンターと情報を共有して連携を図った。医療機関の情報提供が必要と判断される場合は、登録医師を紹介する等の対応を行うとともに、必要に応じて支援対象者のかかりつけ医へ情報提供書の送付を行った。また、支援対象者が必要とする医療機関や相談窓口を電話支援時等に情報提供した。支援結果の分類と支援後の対応の詳細については下記のとおりである。

#### 支援結果の分類

経過観察1	体調や環境面で状態の改善が確認できた場合や、サポート資源利用の有無が確認できた場合など、ご自身で対処がなされていると判断できるもの。
経過観察2	体調不良や災害後遺症が強い者、社会・学校不適応や孤立されている者など、やや心配が残ると判断されるもの。
経過観察3	何らかの理由で状況確認が困難だったもの。
支援希望なし	支援は必要ないと、対象者から申し出があったもの。

#### 支援後の対応

要フォロー	電話での継続支援が必要と判断されたもの。
市町村連絡	対象者の状況から、市町村との情報共有による連携が必要と判断されたもの。
紹介状	こころのケア登録医師を受診するための紹介状を送付したもの。
県内登録医師一覧	こころのケア登録医師についての情報が記載された一覧表を送付したもの。
県外医療機関資料	県外での相談機関情報について(精神保健福祉センター等)情報提供を行ったもの。
情報提供書	かかりつけの医師に、支援対象者の状態について情報提供を行ったもの。
電話での情報提供	電話による支援中、もしくは電話による支援後に改めて架電し、対象者が必要とする医療機関及び相談機関の情報を提供したもの。
他部門の対応	基本調査に関する質問や甲状腺検査についてなど、放射線医学県民健康管理センターの他の部門から回答することが望ましいと判断されたもの。

### 3. 結果

#### 1) 支援対象者数及び支援実施件数

子どもの支援対象者は 1,256 人であり、その内訳は、電話支援対象者 504 人、文書支援対象者 752 人であった。文書支援対象者からの返信内容により、電話支援が必要と判断された者は 37 人であった。

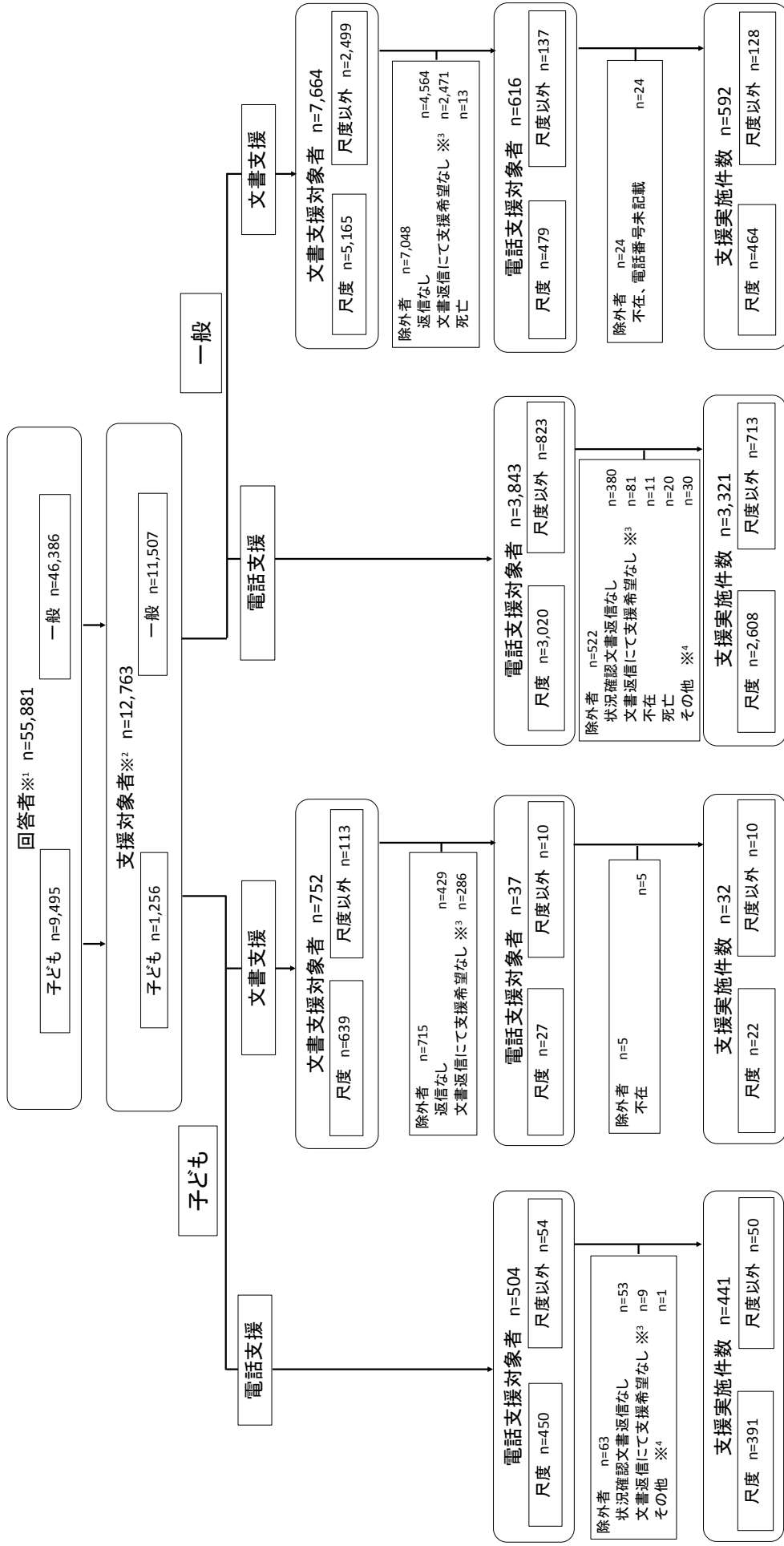
一般の支援対象者は 11,507 人であり、その内訳は、電話支援対象者 3,843 人、文書支援対象者 7,664 人で、文書支援の結果、電話支援が必要と判断された者は 616 人であった。それに加え、文書支援の CAGE の基準のみに該当とした者は 2,010 人であった。

死亡が確認された場合を除き、不在等で電話支援が実施できなかった者、及び CAGE の基準のみに該当した者については、当センターが作成した「こころの健康度と生活習慣サポートブック」を送付して情報提供を行った。

図 1 に、支援対象者数及び支援実施件数の詳細を示す。なお、CAGE の基準のみに該当した者は図に含まない。

また、結果の表中の割合(%)は、端数処理を行っているため、合計が 100%にならない場合がある。





※<sup>1</sup> 平成26年10月31日までに回答した者を集計対象とした。  
 ※<sup>2</sup> 平成26年12月31日までに支援対象となった者を集計対象とした。  
 ※<sup>3</sup> 文書返信にて支援希望なし：ほかを返信時に支援希望なしに丸を付けた者は除外者とした。  
 ※<sup>4</sup> 電話支援の提供時間内で対応が困難だった者等

図1 支援対象者数及び支援実施件数(尺度は尺度による支援、尺度以外は尺度以外の項目による支援を指す)

## 2) 子ども

SDQ の適用年齢は 4 歳以上のため、0歳～3歳については SDQ を用いず、自由記載欄の記載内容により支援を行った。また、文書支援対象者のうち電話支援を実施した対象者は0歳～3歳が 2 人、4歳～6歳が 8 人、小学生が 17 人、中学生が 5 人と少数であったため、以下の支援結果については電話支援対象者と、文書支援対象者のうち電話支援の対象となった者のみを、合わせて集計した。

### (1) 支援対象者の基本属性

子どもの支援対象者のうち、電話支援対象者が 504 人、文書支援対象者のうち電話支援の対象となった者が 37 人の計 541 人であった。そのうち、男児・男子が 321 人 (59.3%)、女児・女子が 220 人 (40.7%) であった。支援対象者のうち、電話支援を実施できた者は 473 人 (87.4%) であった。電話支援を実施できた者の居住地は、県内が 330 人 (69.8%)、県外が 143 人 (30.2%) であった (表 1)。

表 1 子ども基本属性(性別・居住地)

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
支援対象者	541	10	124	265	142
男児・男子	321 (59.3%)	3 (30.0%)	79 (63.7%)	165 (62.3%)	74 (52.1%)
女児・女子	220 (40.7%)	7 (70.0%)	45 (36.3%)	100 (37.7%)	68 (47.9%)
支援実施件数	473	9	110	232	122
県内	330 (69.8%)	6 (66.7%)	76 (69.1%)	158 (68.1%)	90 (73.8%)
県外	143 (30.2%)	3 (33.3%)	34 (30.9%)	74 (31.9%)	32 (26.2%)

居住地(県内外)区分は電話支援を実施できた者のみ

## (2) 支援対象者の状況

支援対象者が直面している状況を、より包括的に把握することを目的に、児童精神医学を専門とする医師の助言を受け、新たに質問項目を作成した。電話支援時に支援対象者(あるいは養育者)から聞き取った質問項目の頻度と割合を、表2に示す。

表2 電話支援を実施できた対象者の状況

	全体 473	0歳～3歳 9	4歳～6歳 110	小学生 232	中学生 122
支援実施件数					
睡眠の問題					
あり	53 (12.9%)	0 (0.0%)	8 (7.8%)	28 (14.0%)	17 (16.7%)
なし	358 (87.1%)	7 (100.0%)	94 (92.2%)	172 (86.0%)	85 (83.3%)
不明	62 -	2 -	8 -	32 -	20 -
食欲があるか					
あり	367 (91.3%)	6 (85.7%)	93 (93.9%)	180 (91.4%)	88 (88.9%)
なし	35 (8.7%)	1 (14.3%)	6 (6.1%)	17 (8.6%)	11 (11.1%)
不明	71 -	2 -	11 -	35 -	23 -
友人関係の問題					
あり	124 (32.6%)	1 (25.0%)	19 (22.1%)	67 (34.9%)	37 (37.8%)
なし	256 (67.4%)	3 (75.0%)	67 (77.9%)	125 (65.1%)	61 (62.2%)
不明	93 -	5 -	24 -	40 -	24 -
元気があるか					
あり	367 (93.1%)	5 (83.3%)	93 (100.0%)	183 (93.8%)	86 (86.0%)
なし	27 (6.9%)	1 (16.7%)	0 (0.0%)	12 (6.2%)	14 (14.0%)
不明	79 -	3 -	17 -	37 -	22 -
身体(化)症状					
あり	46 (12.4%)	1 (16.7%)	10 (11.2%)	21 (11.5%)	14 (14.9%)
なし	326 (87.6%)	5 (83.3%)	79 (88.8%)	162 (88.5%)	80 (85.1%)
不明	101 -	3 -	21 -	49 -	28 -
反抗					
あり	104 (31.4%)	1 (33.3%)	24 (29.6%)	49 (30.1%)	30 (35.7%)
なし	227 (68.6%)	2 (66.7%)	57 (70.4%)	114 (69.9%)	54 (64.3%)
不明	142 -	6 -	29 -	69 -	38 -
イライラ					
あり	116 (34.4%)	0 (0.0%)	27 (32.5%)	56 (33.3%)	33 (39.8%)
なし	221 (65.6%)	3 (100.0%)	56 (67.5%)	112 (66.7%)	50 (60.2%)
不明	136 -	6 -	27 -	64 -	39 -
甘え					
あり	109 (38.0%)	2 (100.0%)	22 (29.7%)	62 (42.8%)	23 (34.8%)
なし	178 (62.0%)	0 (0.0%)	52 (70.3%)	83 (57.2%)	43 (65.2%)
不明	186 -	7 -	36 -	87 -	56 -
退屈					
あり	3 (1.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (1.7%)	1 (1.7%)
なし	245 (98.8%)	3 (100.0%)	66 (100.0%)	119 (98.3%)	57 (98.3%)
不明	225 -	6 -	44 -	111 -	64 -

「不明」は、電話支援時に確認できなかったもの割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

表 2(続き) 電話支援を実施できた対象者の状況

支援実施件数	全体 473	0歳～3歳 9	4歳～6歳 110	小学生 232	中学生 122
<b>発達の問題</b>					
あり	64 (20.8%)	1 (16.7%)	15 (75.0%)	30 (16.3%)	18 (18.6%)
なし	243 (79.2%)	5 (83.3%)	5 (25.0%)	154 (83.7%)	79 (81.4%)
不明	166 -	3 -	90 -	48 -	25 -
<b>情緒・行動の問題</b>					
あり	92 (24.4%)	0 (0.0%)	12 (13.3%)	55 (29.6%)	25 (26.0%)
なし	285 (75.6%)	5 (100.0%)	78 (86.7%)	131 (70.4%)	71 (74.0%)
不明	96 -	4 -	20 -	46 -	26 -
<b>精神疾患</b>					
あり	12 (3.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (3.8%)	5 (5.1%)
なし	363 (96.8%)	5 (100.0%)	88 (100.0%)	177 (96.2%)	93 (94.9%)
不明	98 -	4 -	22 -	48 -	24 -
<b>トラウマ反応</b>					
あり	45 (12.7%)	0 (0.0%)	7 (8.3%)	29 (16.5%)	9 (9.9%)
なし	309 (87.3%)	3 (100.0%)	77 (91.7%)	147 (83.5%)	82 (90.1%)
不明	119 -	6 -	26 -	56 -	31 -
<b>学校(園)への適応状況</b>					
適応	369 (90.7%)	1 (100.0%)	88 (96.7%)	190 (91.8%)	90 (83.3%)
不適応	38 (9.3%)	0 (0.0%)	3 (3.3%)	17 (8.2%)	18 (16.7%)
不明	66 -	8 -	19 -	25 -	14 -
<b>家庭・環境の問題</b>					
あり	38 (10.1%)	0 (0.0%)	3 (3.4%)	23 (12.4%)	12 (12.2%)
なし	340 (89.9%)	5 (100.0%)	86 (96.6%)	163 (87.6%)	86 (87.8%)
不明	95 -	4 -	21 -	46 -	24 -
<b>養育者の子育て不安</b>					
あり	125 (30.3%)	4 (57.1%)	20 (20.8%)	67 (32.5%)	34 (32.7%)
なし	288 (69.7%)	3 (42.9%)	76 (79.2%)	139 (67.5%)	70 (67.3%)
不明	60 -	2 -	14 -	26 -	18 -
<b>養育者の身体的健康</b>					
あり	43 (10.3%)	0 (0.0%)	10 (10.4%)	20 (9.7%)	13 (12.1%)
なし	373 (89.7%)	7 (100.0%)	86 (89.6%)	186 (90.3%)	94 (87.9%)
不明	57 -	2 -	14 -	26 -	15 -
<b>養育者の精神的健康</b>					
あり	71 (17.2%)	0 (0.0%)	13 (13.1%)	39 (19.0%)	19 (18.4%)
なし	342 (82.8%)	6 (100.0%)	86 (86.9%)	166 (81.0%)	84 (81.6%)
不明	60 -	3 -	11 -	27 -	19 -
<b>通院している病院の有無</b>					
精神科／心療内科等	37 (10.2%)	1 (12.5%)	5 (5.7%)	16 (9.1%)	15 (16.1%)
精神科以外	41 (11.3%)	2 (25.0%)	11 (12.6%)	20 (11.4%)	8 (8.6%)
なし	286 (78.6%)	5 (62.5%)	71 (81.6%)	140 (79.5%)	70 (75.3%)
不明	109 -	1 -	23 -	56 -	29 -
<b>利用している相談機関</b>					
あり	57 (17.8%)	4 (50.0%)	10 (12.7%)	27 (17.1%)	16 (21.3%)
なし	263 (82.2%)	4 (50.0%)	69 (87.3%)	131 (82.9%)	59 (78.7%)
不明	153 -	1 -	31 -	74 -	47 -

「不明」は、電話支援時に確認できなかったもの割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

電話支援を実施できた対象者の状況について、子ども全体で多く挙げた項目は「友人関係の問題」が 124 人(32.6%)、「反抗」が 104 人(31.4%)、「イライラ」が 116 人(34.4%)、「甘え」が 109 人(38.0%)、「養育者の子育て不安」が 125 人(30.3%)であった。また、「通院している病院の有無」は、精神科や心療内科等へ通院している者が 37 人(10.2%)、精神科や心療内科等以外の診療科へ通院している者が 41 人(11.3%)、通院をしていない者が 286 人(78.6%)であった。

### (3) 支援結果の分類と支援後の対応

電話支援を行った結果について、平成 25 年度も過年度と同様、「経過観察1」「経過観察2」「経過観察3」「支援希望なし」に分類した。表 3 に、その結果を示す。さらに、「経過観察2」と判断した理由をより明確化するため、判断理由について、子ども自身の問題と養育者が抱える問題に分けて分類した(表 4)。判断理由の件数は延べ数であり、割合は「経過観察2」の件数に対するものである。

電話支援の結果、「経過観察1」は 355 人(75.1%)、「経過観察2」は 102 人(21.6%)、「経過観察3」は 9 人(1.9%)、「支援希望なし」は 7 人(1.5%)であった(表 3)。「経過観察2」と判断した理由は、子ども自身は「学校不適応」が 34 人(33.3%)と最も多かった。また、子ども、養育者双方とも「体調不良(精神)」が多く、子どもは 28 人(27.5%)、養育者は 39 人(38.2%)であった(表 4)。

表 3 子ども支援結果分類の内訳

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
支援実施件数	473	9	110	232	122
経過観察1	355 (75.1%)	8 (88.9%)	86 (78.2%)	173 (74.6%)	88 (72.1%)
経過観察2	102 (21.6%)	1 (11.1%)	19 (17.3%)	51 (22.0%)	31 (25.4%)
経過観察3	9 (1.9%)	0 (0.0%)	3 (2.7%)	5 (2.2%)	1 (0.8%)
支援希望なし	7 (1.5%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	3 (1.3%)	2 (1.6%)

表 4 「経過観察2」の判断理由内訳

	全体	0歳～3歳	4歳～6歳	小学生	中学生
「経過観察2」の件数	102	1	19	51	31
<子ども>					
体調不良(身体)	9 (8.8%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	3 (5.9%)	4 (12.9%)
体調不良(精神)	28 (27.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	15 (29.4%)	13 (41.9%)
災害後遺症	14 (13.7%)	0 (0.0%)	6 (31.6%)	6 (11.8%)	2 (6.5%)
学校不適応	34 (33.3%)	0 (0.0%)	13 (68.4%)	8 (15.7%)	13 (41.9%)
その他	20 (19.6%)	1 (100.0%)	5 (26.3%)	8 (15.7%)	6 (19.4%)
<養育者>					
体調不良(身体)	14 (13.7%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	7 (13.7%)	5 (16.1%)
体調不良(精神)	39 (38.2%)	0 (0.0%)	9 (47.4%)	20 (39.2%)	10 (32.3%)
養育上の問題	18 (17.6%)	0 (0.0%)	4 (21.1%)	7 (13.7%)	7 (22.6%)
孤立	5 (4.9%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	2 (3.9%)	2 (6.5%)
その他	8 (7.8%)	1 (100.0%)	1 (5.3%)	6 (11.8%)	0 (0.0%)

内訳は延べ数

支援後の対応は、「要フォロー」が 28 人、「市町村連絡」が 4 人、「県内登録医師一覧」が 5 人、「情報提供書」が 1 人、「電話での情報提供」が 9 人、「他部門の対応」が 1 人であった(表 5)。

表 5 子ども支援後の対応

支援実施件数	全体 473	0歳～3歳 9	4歳～6歳 110	小学生 232	中学生 122
要フォロー	28 (5.9%)	1 (11.1%)	5 (4.5%)	11 (4.7%)	11 (9.0%)
市町村連絡	4 (0.8%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	1 (0.4%)	1 (0.8%)
紹介状	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
県内登録医師一覧	5 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (1.7%)	1 (0.8%)
県外医療機関資料	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
情報提供書	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
電話での情報提供	9 (1.9%)	0 (0.0%)	2 (1.8%)	4 (1.7%)	3 (2.5%)
他部門の対応	1 (0.2%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

#### (4) 対象者を取り巻く問題（子ども）

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターにおける、平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」での支援より、電話支援記録から帰納法的分析手法を用いて相談中に聞かれた問題のカテゴリー分類を行った。その結果、『子どもの反応』『保護者・家庭の問題』『学校・近隣等の関係』『環境』の 4 つの大カテゴリーに分類され、『子どもの反応』『保護者・家庭の問題』の 2 カテゴリーに関しては、さらに小カテゴリーに分類された。それらを「対象者を取り巻く問題」として概念図化したものを図 2 に示す。

平成 25 年度調査も平成 24 年度と同様に、平成 23 年度支援の結果作成された、対象者を取り巻く問題のカテゴリーに沿って、支援の中で語られる内容を分類した。

その結果、平成 25 年度では主に、『子どもの反応』において、「学校生活への影響」「イライラ・暴力」、『保護者・家庭の問題』において、「保護者自身」が語られた。

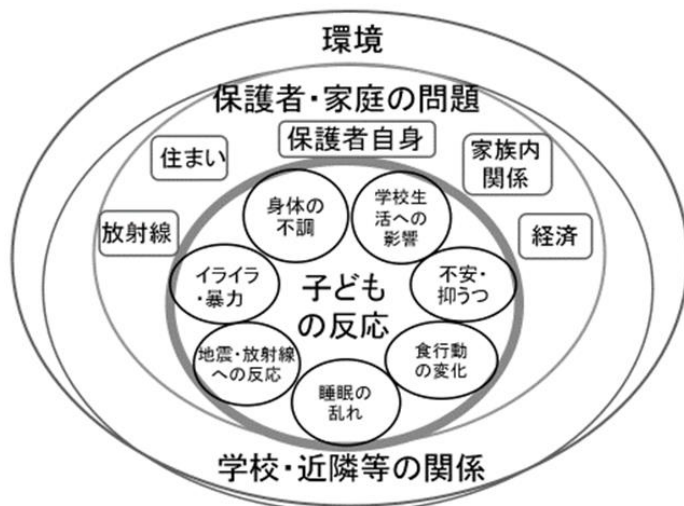


図 2 対象者を取り巻く問題の概念図(子ども)

### 3) 一般

#### (1) 支援対象者の基本属性

##### ア) 電話支援対象者

電話支援対象者は、尺度による支援の対象者 3,020 人と尺度以外の項目による支援の対象者 823 人の計 3,843 人であった。尺度による支援の対象者のうち、男性が 1,150 人 (38.1%)、女性が 1,870 人 (61.9%) であった。尺度以外の項目による支援の対象者のうち、男性が 392 人 (47.6%)、女性が 431 人 (52.4%) であった(表 6)。支援対象者のうち、電話支援を実施できた者は 3,321 人 (86.4%) であった。電話支援を実施できた者の居住地は、県内が 2,622 人 (79.0%)、県外が 699 人 (21.0%) であった(表 7)。

表 6 電話支援対象者の性別及び年齢の分布

年代	尺度による支援				尺度以外の項目による支援		
	全体	男性	女性		全体	男性	女性
10代	55	21 (38.2%)	34 (61.8%)		13	5 (38.5%)	8 (61.5%)
20代	124	40 (32.3%)	84 (67.7%)		45	16 (35.6%)	29 (64.4%)
30代	295	116 (39.3%)	179 (60.7%)		90	35 (38.9%)	55 (61.1%)
40代	303	132 (43.6%)	171 (56.4%)		114	63 (55.3%)	51 (44.7%)
50代	416	170 (40.9%)	246 (59.1%)		161	101 (62.7%)	60 (37.3%)
60代	657	274 (41.7%)	383 (58.3%)		217	98 (45.2%)	119 (54.8%)
70代	691	254 (36.8%)	437 (63.2%)		123	55 (44.7%)	68 (55.3%)
80代以上	479	143 (29.9%)	336 (70.1%)		60	19 (31.7%)	41 (68.3%)
合計	3,020	1,150 (38.1%)	1,870 (61.9%)		823	392 (47.6%)	431 (52.4%)

平成25年4月1日時点年齢

10代は15歳から19歳

表 7 電話支援対象者の居住地状況(県内外)

居住地	支援実施件数		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	3,321		2,608		713	
県内	2,622	(79.0%)	2,049	(78.6%)	573	(80.4%)
県外	699	(21.0%)	559	(21.4%)	140	(19.6%)

居住地(県内外)区分は電話支援を実施できた者のみ

## イ) 文書支援対象者

文書支援対象者のうち、電話支援の対象となった者は、尺度による支援の対象者 479人と尺度以外の項目による支援の対象者 137人の計 616人であった。尺度による支援の対象者のうち、男性が 210人(43.8%)、女性が 269人(56.2%)であった。尺度以外の項目による支援の対象者のうち、男性が 76人(55.5%)、女性が 61人(44.5%)であった(表 8)。支援対象者のうち、電話支援を実施できた者は 592人(96.1%)であった。電話支援を実施できた者の居住地は、県内が 483人(81.6%)、県外が 109人(18.4%)であった(表 9)。

表 8 電話支援対象者の性別及び年齢の分布(文書支援対象者中)

年代	尺度による支援			尺度以外の項目による支援		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
10代	1	0 (0.0%)	1 (100.0%)	2	2 (100.0%)	0 (0.0%)
20代	6	2 (33.3%)	4 (66.7%)	3	1 (33.3%)	2 (66.7%)
30代	16	6 (37.5%)	10 (62.5%)	4	3 (75.0%)	1 (25.0%)
40代	19	8 (42.1%)	11 (57.9%)	12	3 (25.0%)	9 (75.0%)
50代	45	17 (37.8%)	28 (62.2%)	15	10 (66.7%)	5 (33.3%)
60代	79	39 (49.4%)	40 (50.6%)	49	28 (57.1%)	21 (42.9%)
70代	195	82 (42.1%)	113 (57.9%)	28	15 (53.6%)	13 (46.4%)
80代以上	118	56 (47.5%)	62 (52.5%)	24	14 (58.3%)	10 (41.7%)
合計	479	210 (43.8%)	269 (56.2%)	137	76 (55.5%)	61 (44.5%)

平成25年4月1日時点年齢  
10代は15歳から19歳

表 9 電話支援対象者の居住地状況(県内外)(文書支援対象者中)

居住地	支援実施件数		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	592		464		128	
県内	483	(81.6%)	380	(81.9%)	103	(80.5%)
県外	109	(18.4%)	84	(18.1%)	25	(19.5%)

居住地(県内外)区分は電話支援を実施できた者のみ



## (2) 支援対象者の状況

### ア) 電話支援対象者

電話支援時に支援対象者から聞き取った「体調の変化」「睡眠状況」「通院先状況」等の頻度と割合を表 10 に示す。

表 10 電話支援を実施できた対象者の状況

支援実施件数	全体 3,321		尺度による支援 2,608		尺度以外の項目による支援 713	
<b>体調の変化</b>						
改善	417	(13.4%)	280	(11.5%)	137	(20.1%)
変化なし	2,080	(66.6%)	1,642	(67.3%)	438	(64.2%)
悪化	502	(16.1%)	450	(18.4%)	52	(7.6%)
以前から問題なし	123	(3.9%)	68	(2.8%)	55	(8.1%)
不明	199	—	168	—	31	—
<b>睡眠状況</b>						
改善	339	(11.2%)	245	(10.4%)	94	(13.9%)
変化なし	2,279	(75.0%)	1,791	(75.8%)	488	(72.3%)
悪化	243	(8.0%)	217	(9.2%)	26	(3.9%)
以前から問題なし	178	(5.9%)	111	(4.7%)	67	(9.9%)
不明	282	—	244	—	38	—
<b>通院先状況</b>						
精神科／心療内科等	468	(15.4%)	426	(17.9%)	42	(6.3%)
精神科以外	1,959	(64.3%)	1,587	(66.8%)	372	(55.4%)
なし	621	(20.4%)	364	(15.3%)	257	(38.3%)
不明	273	—	231	—	42	—
<b>相談機関の有無</b>						
あり	459	(28.6%)	296	(25.7%)	163	(36.0%)
なし	1,145	(71.4%)	855	(74.3%)	290	(64.0%)
不明	1,717	—	1,457	—	260	—
<b>気持ちの落ち込み</b>						
あり	1,245	(44.2%)	1,104	(50.3%)	141	(22.7%)
なし	1,570	(55.8%)	1,091	(49.7%)	479	(77.3%)
不明	506	—	413	—	93	—
<b>地震への反応</b>						
強い	147	(7.0%)	140	(7.8%)	7	(2.2%)
弱い	277	(13.2%)	248	(13.8%)	29	(9.3%)
なし	1,679	(79.8%)	1,403	(78.3%)	276	(88.5%)
不明	1,218	—	817	—	401	—

「不明」は、電話支援時に確認できなかったもの  
割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

1年前と比較した「体調の変化」は、改善した者が417人(13.4%)、変化がなかった者が2,080人(66.6%)、悪化した者が502人(16.1%)、以前から問題がなかった者が123人(3.9%)であった。

1年前と比較した「睡眠状況」は、改善した者が339人(11.2%)、変化がなかった者が2,279人(75.0%)、悪化した者が243人(8.0%)、以前から問題がなかった者が178人(5.9%)であった。

「通院先状況」は、精神科や心療内科等へ通院している者が468人(15.4%)、精神科や心療内科等以外の診療科へ通院している者が1,959人(64.3%)、通院をしていない者が621人(20.4%)であった。

## イ) 文書支援対象者

返信されたハガキで電話支援希望の有無を確認し、支援希望の記載がある者、もしくは「こころの健康支援チーム」が返信内容から支援が必要と判断した者に対して、電話支援を行った。電話支援時に支援対象者から聞き取った「体調の変化」「睡眠状況」「通院先状況」等の頻度と割合を表 11 に示す。

表 11 電話支援を実施できた対象者の状況(文書支援対象者中)

支援実施件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	592		464		128	
体調の変化						
改善	47	(8.7%)	35	(8.3%)	12	(9.9%)
変化なし	368	(67.8%)	295	(69.9%)	73	(60.3%)
悪化	97	(17.9%)	80	(19.0%)	17	(14.0%)
以前から問題なし	31	(5.7%)	12	(2.8%)	19	(15.7%)
不明	49	—	42	—	7	—
睡眠状況						
改善	27	(5.2%)	18	(4.4%)	9	(7.8%)
変化なし	400	(76.8%)	326	(80.3%)	74	(64.3%)
悪化	25	(4.8%)	19	(4.7%)	6	(5.2%)
以前から問題なし	69	(13.2%)	43	(10.6%)	26	(22.6%)
不明	71	—	58	—	13	—
通院先状況						
精神科／心療内科等	42	(7.5%)	39	(8.9%)	3	(2.4%)
精神科以外	438	(78.1%)	365	(83.3%)	73	(60.3%)
なし	81	(14.4%)	34	(7.8%)	47	(38.2%)
不明	31	—	26	—	5	—
相談機関の有無						
あり	89	(41.4%)	50	(33.3%)	39	(60.0%)
なし	126	(58.6%)	100	(66.7%)	26	(40.0%)
不明	377	—	314	—	63	—
気持ちの落ち込み						
あり	139	(28.8%)	117	(31.3%)	22	(20.4%)
なし	343	(71.2%)	257	(68.7%)	86	(79.6%)
不明	110	—	90	—	20	—
地震への反応						
強い	12	(3.6%)	12	(3.8%)	0	(0.0%)
弱い	21	(6.3%)	17	(5.4%)	4	(25.0%)
なし	300	(90.1%)	288	(90.9%)	12	(75.0%)
不明	259	—	147	—	112	—

「不明」は、電話支援時に確認できなかったもの

割合は、「不明」を除外した合計に対して算出

1年前と比較した「体調の変化」は、改善した者が47人(8.7%)、変化がなかった者が368人(67.8%)、悪化した者が97人(17.9%)、以前から問題がなかった者が31人(5.7%)であった。

1年前と比較した「睡眠状況」は、改善した者が27人(5.2%)、変化がなかった者が400人(76.8%)、悪化した者が25人(4.8%)、以前から問題がなかった者が69人(13.2%)であった。

「通院先状況」は、精神科や心療内科等へ通院している者が42人(7.5%)、精神科や心療内科等以外の診療科へ通院している者が438人(78.1%)、通院をしていない者が81人(14.4%)であった。

### (3) 支援結果の分類と支援後の対応

電話支援を行った結果について、平成 25 年度も過年度と同様、「経過観察1」「経過観察2」「経過観察3」「支援希望なし」に分類した。表 12 に、その結果を示す。さらに、「経過観察2」と判断した理由をより明確化するため、判断理由も分類した。判断理由の件数は延べ数であり、割合は「経過観察2」の件数に対するものである。

#### ア) 電話支援対象者

電話支援の結果、「経過観察1」は 2,573 人(77.5%)であり、「経過観察2」は 599 人(18.0%)であり、「経過観察3」は 114 人(3.4%)であり、「支援希望なし」は 35 人(1.1%)であった(表 12)。「経過観察2」と判断した理由は「体調不良(身体)」が 308 人(51.4%)、「体調不良(精神)」が 412 人(68.8%)、「災害後遺症」が 64 人(10.7%)、「社会不適応」が 63 人(10.5%)、「孤立」が 69 人(11.5%)であった(表 13)。

表 12 電話支援結果分類の内訳

	全体	尺度による支援	尺度以外の項目による支援
支援実施件数	3,321	2,608	713
経過観察1	2,573 (77.5%)	1,982 (76.0%)	591 (82.9%)
経過観察2	599 (18.0%)	501 (19.2%)	98 (13.7%)
経過観察3	114 (3.4%)	94 (3.6%)	20 (2.8%)
支援希望なし	35 (1.1%)	31 (1.2%)	4 (0.6%)

表 13 「経過観察2」の判断理由内訳

	全体	尺度による支援	尺度以外の項目による支援
「経過観察2」の件数	599	501	98
体調不良(身体)	308 (51.4%)	261 (52.1%)	47 (48.0%)
体調不良(精神)	412 (68.8%)	347 (69.3%)	65 (66.3%)
災害後遺症	64 (10.7%)	57 (11.4%)	7 (7.1%)
社会不適応	63 (10.5%)	59 (11.8%)	4 (4.1%)
孤立	69 (11.5%)	62 (12.4%)	7 (7.1%)

内訳は延べ数

支援後の対応は、「要フォロー」が 214 人、「市町村連絡」が 65 人、「紹介状」が 8 人、「県内登録医師一覧」が 34 人、「県外医療機関資料」が 5 人、「情報提供書」が 4 人、「電話での情報提供」が 34 人、「他部門の対応」が 6 人であった(表 14)。

表 14 支援後の対応

支援実施件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	3,321		2,608		713	
要フォロー	214	(6.4%)	121	(4.6%)	93	(13.0%)
市町村連絡	65	(2.0%)	56	(2.1%)	9	(1.3%)
紹介状	8	(0.2%)	7	(0.3%)	1	(0.1%)
県内登録医師一覧	34	(1.0%)	29	(1.1%)	5	(0.7%)
県外医療機関資料	5	(0.2%)	2	(0.1%)	3	(0.4%)
情報提供書	4	(0.1%)	3	(0.1%)	1	(0.1%)
電話での情報提供	34	(1.0%)	28	(1.1%)	6	(0.8%)
他部門の対応	6	(0.2%)	5	(0.2%)	1	(0.1%)

## イ) 文書支援対象者

電話支援の結果、「経過観察1」は506人(85.5%)であり、「経過観察2」は78人(13.2%)であり、「経過観察3」は6人(1.0%)であり、「支援希望なし」は2人(0.3%)であった(表15)。「経過観察2」と判断した理由は「体調不良(身体)」が48人(61.5%)、「体調不良(精神)」が42人(53.8%)、「災害後遺症」が4人(5.1%)、「社会不適応」が4人(5.1%)、「孤立」が3人(3.8%)であった(表16)。

表 15 電話支援結果分類(文書支援対象者中)

支援実施件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	592		464		128	
経過観察1	506	(85.5%)	395	(85.1%)	111	(86.7%)
経過観察2	78	(13.2%)	62	(13.4%)	16	(12.5%)
経過観察3	6	(1.0%)	6	(1.3%)	0	(0.0%)
支援希望なし	2	(0.3%)	1	(0.2%)	1	(0.8%)

表 16 「経過観察2」の判断理由内訳

「経過観察2」の件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	78		62		16	
体調不良(身体)	48	(61.5%)	36	(58.1%)	12	(75.0%)
体調不良(精神)	42	(53.8%)	36	(58.1%)	6	(37.5%)
災害後遺症	4	(5.1%)	4	(6.5%)	0	(0.0%)
社会不適応	4	(5.1%)	3	(4.8%)	1	(6.3%)
孤立	3	(3.8%)	3	(4.8%)	0	(0.0%)

内訳は延べ数

支援後の対応は、「要フォロー」が25人、「市町村連絡」が4人、「県内登録医師一覧」が8人、「電話での情報提供」が4人、「他部門の対応」が4人であった(表17)。

表 17 支援後の対応

支援実施件数	全体		尺度による支援		尺度以外の項目による支援	
	592		464		128	
要フォロー	25	(4.2%)	16	(3.4%)	9	(7.0%)
市町村連絡	4	(0.7%)	2	(0.4%)	2	(1.6%)
紹介状	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
県内登録医師一覧	8	(1.4%)	7	(1.5%)	1	(0.8%)
県外医療機関資料	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
情報提供書	0	(0.0%)	0	(0.0%)	0	(0.0%)
電話での情報提供	4	(0.7%)	4	(0.9%)	0	(0.0%)
他部門の対応	4	(0.7%)	3	(0.6%)	1	(0.8%)

#### (4) 対象者を取り巻く問題（一般）

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センターにおける、平成 23 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」での支援より、電話支援記録から帰納法的分析手法を用いて相談中に聞かれた訴えのカテゴリー分類を行った。その結果、『自身の反応』『家庭内の問題』『社会生活における問題』『風土・文化的背景に関すること』の 4 つの大カテゴリーに分類され、『自身の反応』『家庭内の問題』『社会生活における問題』の 3 カテゴリーに関しては、さらに小カテゴリーに分類された。それらを「対象者を取り巻く問題」として概念図化したものを図 3 に示す。

平成 25 年度も平成 24 年度と同様に、平成 23 年度支援の結果作成された、対象者を取り巻く問題のカテゴリーに沿って、支援の中で語られる内容を分類した。

その結果、平成 25 年度は主に、『自身の反応』について、「身体の不調」「睡眠の乱れ」「抑うつ」「将来の不安」、『家庭内の問題』について、「住環境の変化」「家族内関係」「日常生活習慣の変更」、『社会生活における問題』について、「行政政策への不満・補償問題」「保健医療福祉」が語られた。

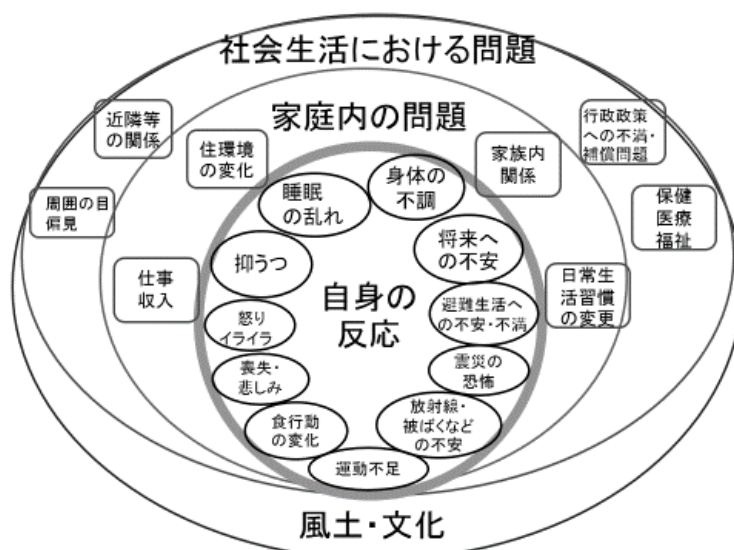


図 3 対象者を取り巻く問題の概念図（一般）

#### 4. まとめ

平成 25 年度「こころの健康度・生活習慣に関する調査」の回答者のうち、子どもの支援対象者は 1,256 人、一般の支援対象者は 11,507 人であった。CAGE(アルコール依存尺度)の基準のみに該当した支援対象者は 2,010 人であった。子どもの支援対象者の内訳は、電話支援の対象者 504 人、文書支援の対象者 752 人であり、そのうち返信内容から電話支援が必要と判断された者は 37 人であった。一般の支援対象者の内訳は、電話支援の対象者 3,843 人、文書支援の対象者 7,664 人であり、そのうち返信内容から電話支援が必要と判断された者は 616 人であった。死亡が確認された場合を除き、不在等で電話支援が実施できなかった者には、当センターが作成した「こころの健康度と生活習慣サポートブック」を送付し、情報提供を行った。また、CAGE の基準のみに該当した支援対象者に対しても同様にパンフレットを送付した。

子どもへの電話支援では、355 人(75.1%)が「経過観察1<sup>※1</sup>」に分類され、102 人(21.6%)が「経過観察2<sup>※2</sup>」に分類された。また、「対象者を取り巻く問題」の категорияに沿って支援の中で語られた内容を分類すると、『子どもの反応』は、「学校生活への影響」「イライラ・暴力」、『保護者・家庭の問題』は、「保護者自身」が主に語られた。

一般への電話支援では、電話支援対象者については、2,573 人(77.5%)が「経過観察1」に分類され、599 人(18.0%)が「経過観察2」に分類された。文書支援対象者については、506 人(85.5%)が「経過観察1」に分類され、78 人(13.2%)が「経過観察2」に分類された。「対象者を取り巻く問題」の categoriaに沿って支援の中で語られた内容を分類すると、『自身の反応』は、「身体の不調」「睡眠の乱れ」「抑うつ」「将来の不安」、『家庭内の問題』は、「住環境の変化」「家族内関係」「日常生活・習慣の変更」、『社会生活における問題』は、「行政政策への不満・補償問題」が主に語られた。

- ※1 経過観察1:体調や環境の面で状態の改善が確認できた場合や、サポート資源利用の有無が確認できた場合などご自身で対処がなされていると判断できるもの。
- ※2 経過観察2:体調不良や災害後遺症が強い者、社会・学校不適應や孤立されている者など、やや心配が残ると判断されるもの。